

授業外学修時間及び学修行動に関する調査報告

2026 年 09 月

駿河台大学 IR 実施委員会

1. 概要

教育の質の向上の一環として、「学生の主体的な学修」の涵養が求められている中で、本学においては、学生委員会が実施する「学生生活基本調査」において、学修時間や学修行動等に関する設問を設けて調査を行い、その結果をホームページ等で学内外に公表しています。

今回の調査では、学生の学修時間や学修行動について、前年度以前の調査と比較したうえで、学生の状況を認識するとともに、教育活動の妥当性を検討するための基礎資料として活用するために、とりまとめました。

2. 集計・分析

(1) 2025 年度学生生活基本調査の概要

実施期間：2025 年 10 月 6 日（月）から 11 月 30 日（日）まで

調査対象者：全学部・全学年の学生 3,872 名

調査方法：全学年ゼミの授業の中で調査依頼。回答は、Google フォームで回答

回答総数：1,910 名（回答率 49.3%）

参考：2024 年度回答率 55.4%、2023 年度回答率 39.9%、2022 年度回答率 50.6%、2021 年度回答率 23.4%

学部	1 年	2 年	3 年	4 年	計
法	58.5%	62.8%	48.7%	38.8%	50.6%
経済経営	62.1%	48.7%	37.8%	30.4%	44.4%
メディア情報	57.8%	49.0%	32.9%	34.3%	42.5%
スポーツ科学/現代文化	62.1%	54.1%	45.0%	42.6%	50.8%
心理	91.5%	48.9%	48.7%	47.2%	59.8%
計	66.0%	52.6%	42.7%	38.2%	49.3%

2025 年度調査の回答率は 49.3%で前年度には及ばないものの 2022 年度に近い回答率でした。なお、過年度生のみが在籍している現代文化学部生の回答者は 0 名でした。

また、学部別では、近年同様、心理学部が最も高く、メディア情報学部の回答率が低くなっています。

学年別では、例年通り学年が高くなるにつれて回答率が低くなっています。

3. 学修時間に関する結果概要

(1) 学生生活基本調査における学修時間該当設問

設問 11 あなたは、授業以外の学修に週に平均どの位の時間をかけていますか。

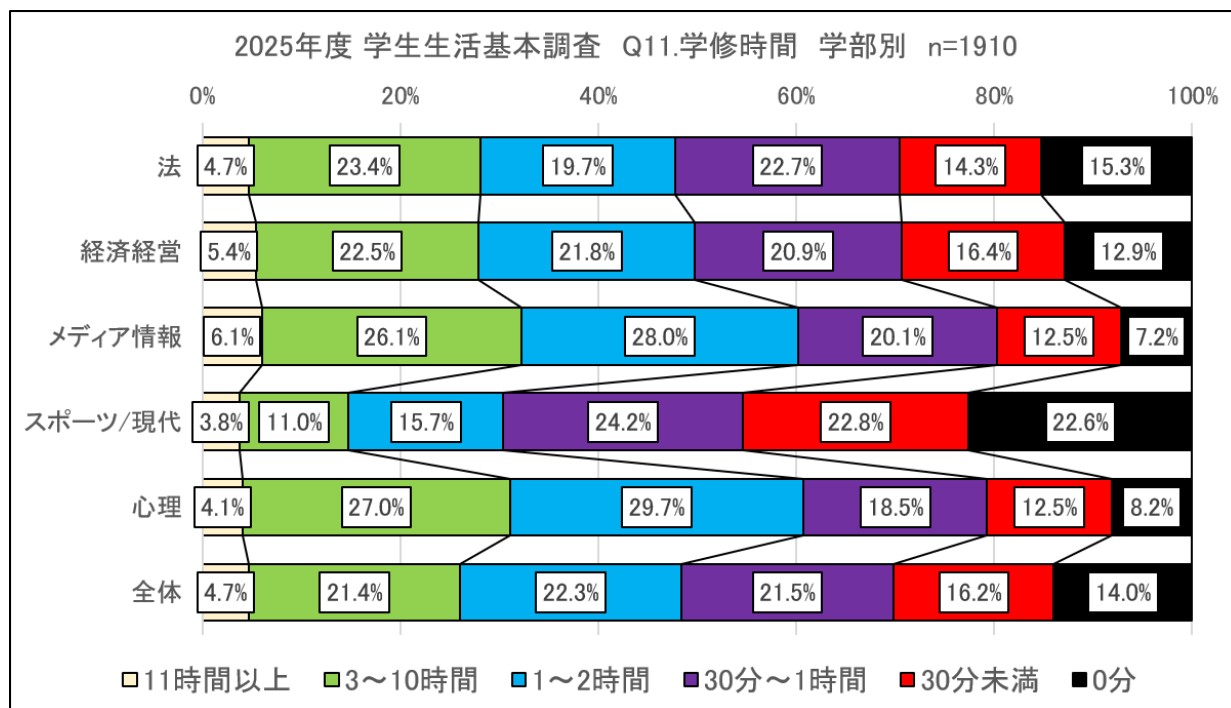
20 時間以上	16～20 時間	11～15 時間	6～10 時間	3～5 時間
1～2 時間	30 分～1 時間	30 分未満	0 分	

コロナ禍の 2020 年度では、1 時間以内が全学部で全体の 23%に低下しましたが、2022 年度は 43%、2023 年度は 45%、2024 年度は 54%、2025 年度は 51.6%と 2 年連続で半数を超え、コロナ禍以前に戻っています。

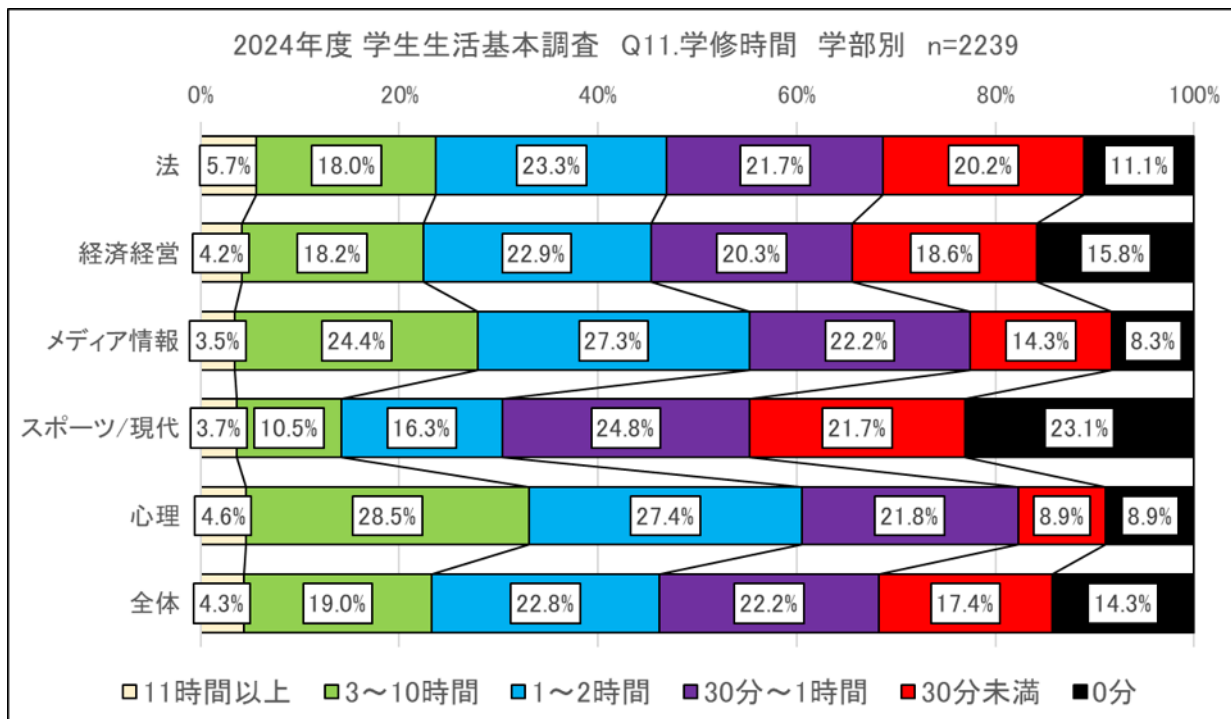
同様に、学修時間が 3 時間以上の割合は、2020 年度は 51%と割合が高くなりましたが、2022 年度は 32%、2023 年度は 29%、2024 年度は 23%、2025 年度は 26.1%であり、全体的な傾向として、長い学修時間を選択した層の割合は、コロナ禍の 2020 年度を頂点として低下傾向にあり、コロナ禍以前とほぼ同水準になりました。

(2) 学部別集計

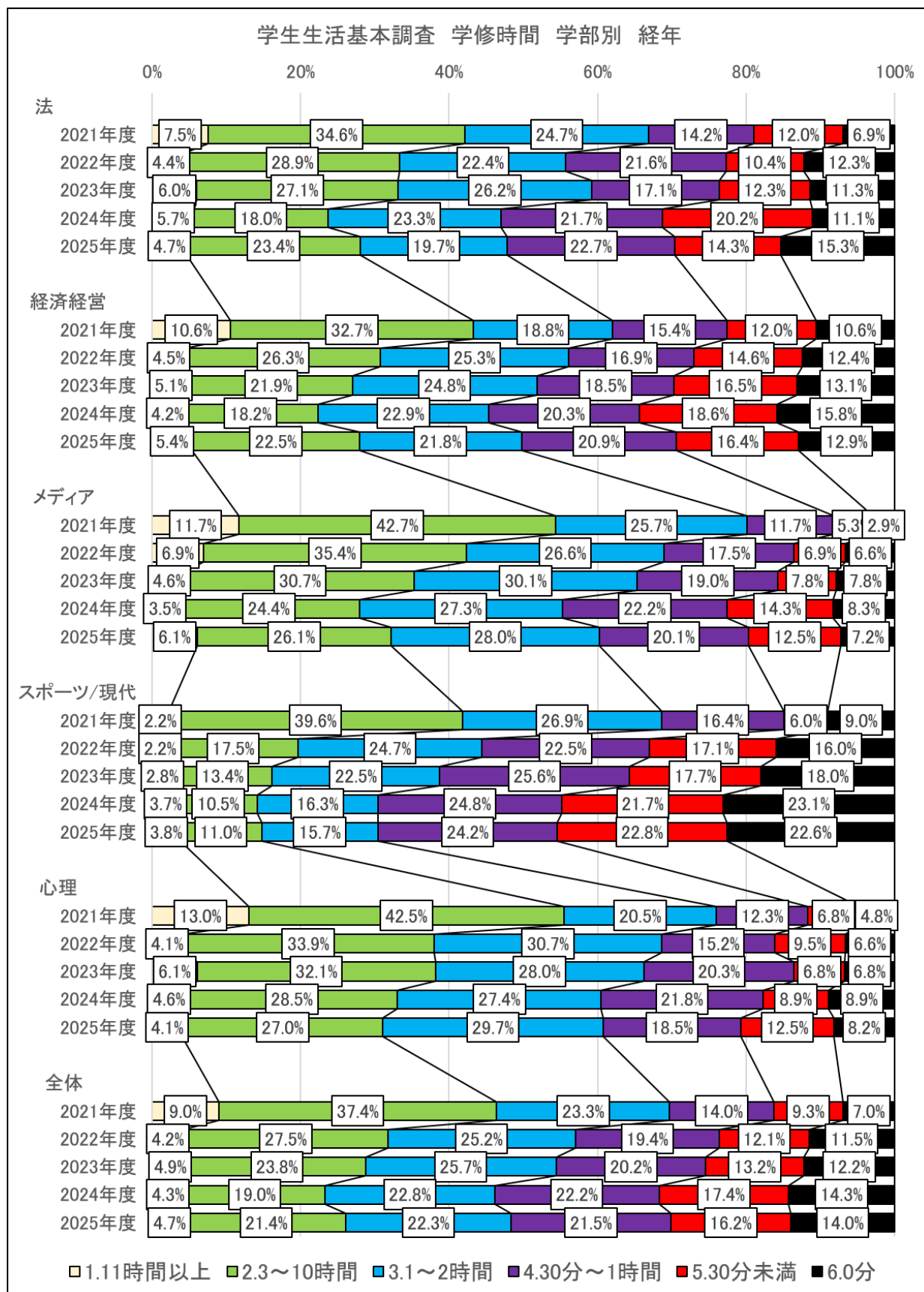
学修時間が1時間未満（「0分」「30分未満」「30分～1時間未満」）の割合は、スポーツ科学部/現代文化学部が70%で最も高く、心理学部が39%で最も低い結果となりました。一方、学修時間が3時間以上の割合は、メディア情報・心理の2学部が30%台前半で、スポーツ科学部/現代文化学部は15%でした。



参考) 2024 年度調査



参考) 2021 年度から 2025 年度調査経年比較



学生生活基本調査 学修時間 学部別 経年

学部	11時間以上	3～10時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	0分	計
法							
2021年度	25	115	82	47	40	23	332
2022年度	29	189	146	141	68	80	653
2023年度	26	117	113	74	53	49	432
2024年度	26	83	107	100	93	51	460
2025年度	19	95	80	92	58	62	406
経済経営							
2021年度	22	68	39	32	25	22	208
2022年度	19	110	106	71	61	52	419
2023年度	21	90	102	76	68	54	411
2024年度	24	105	132	117	107	91	576
2025年度	23	96	93	89	70	55	426
メディア							
2021年度	20	73	44	20	9	5	171
2022年度	19	97	73	48	19	18	274
2023年度	7	47	46	29	12	12	153
2024年度	11	77	86	70	45	26	315
2025年度	16	69	74	53	33	19	264
スポーツ/現代							
2021年度	3	53	36	22	8	12	134
2022年度	10	80	113	103	78	73	457
2023年度	11	53	89	101	70	71	395
2024年度	19	54	84	128	112	119	516
2025年度	17	49	70	108	102	101	447
心理							
2021年度	19	62	30	18	10	7	146
2022年度	13	107	97	48	30	21	316
2023年度	18	95	83	60	20	20	296
2024年度	17	106	102	81	33	33	372
2025年度	15	99	109	68	46	30	367
全体							
2021年度	89	371	231	139	92	69	991
2022年度	90	583	535	411	256	244	2119
2023年度	83	402	433	340	223	206	1687
2024年度	97	425	511	496	390	320	2239
2025年度	90	408	426	410	309	267	1910

(3) 学年別集計

学修時間が1時間未満（「0分」「30分未満」「30分～1時間未満」）の割合は、4年次で51%、3年次で49%、2年次で49%、1年次で56%でした。一方、学修時間が3時間以上の割合は、4年次で28%、3年次で31%、2年次で26%、1年次で22%となり、1.2年次生がやや低くなっています。

秋学期の履修科目数は1.2年次では10科目を超えていますが、3.4年次生では履修科目数が少なくなり、特に4年次生では必修演習のみの学生がいることも考えると、高学年程、1科目にかける時間の割合は高くなっていること、1年次における学修時間が他の学年に比べて少ないことが挙げられます。

経年では、学部別と同様、いずれの学年についても昨年度より時間数が短くなっています。

2025年度秋学期履修科目数

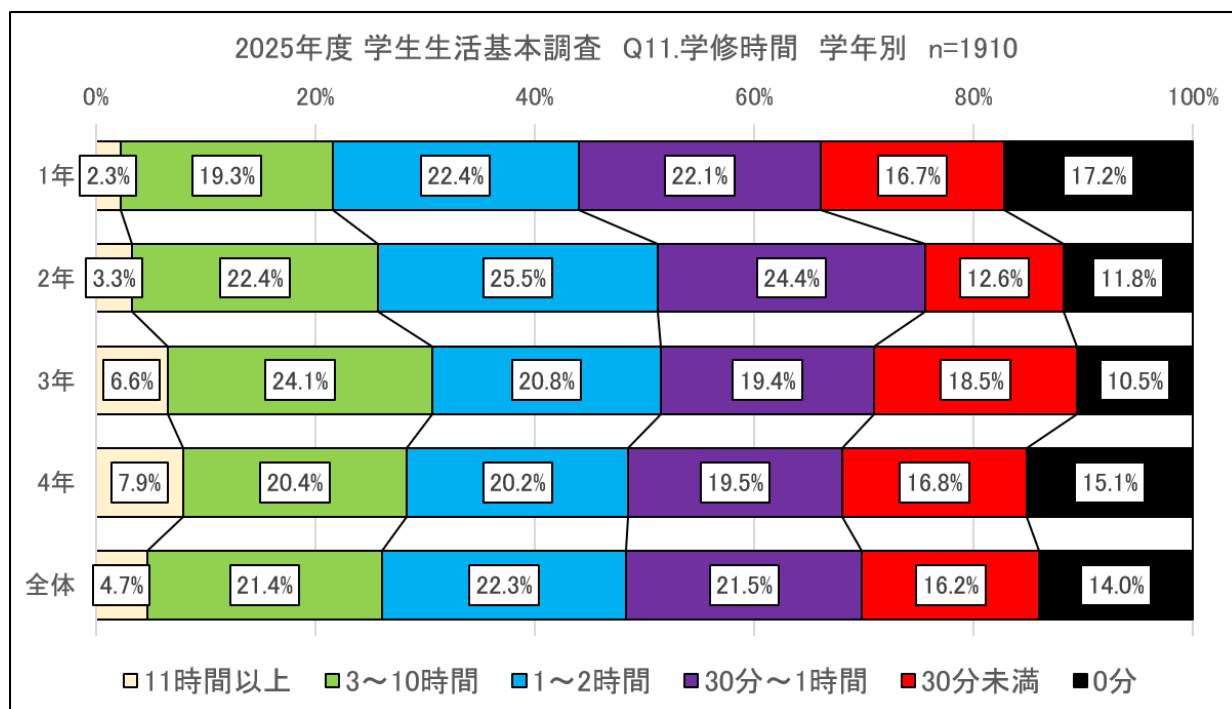
履修科目数	1年	2年	3年	4年	計
01-02科目	0	1	6	563	570
03-04科目	0	2	34	183	219
05-06科目	1	8	127	89	225
07-08科目	17	47	268	54	386
09-10科目	324	259	304	34	921
11-12科目	357	357	176	40	930
13-14科目	176	93	50	11	330
15科目以上	46	81	13	5	145
計	921	848	978	979	3726

※ 教職課程等卒業要件外科目、単位認定科目も含む

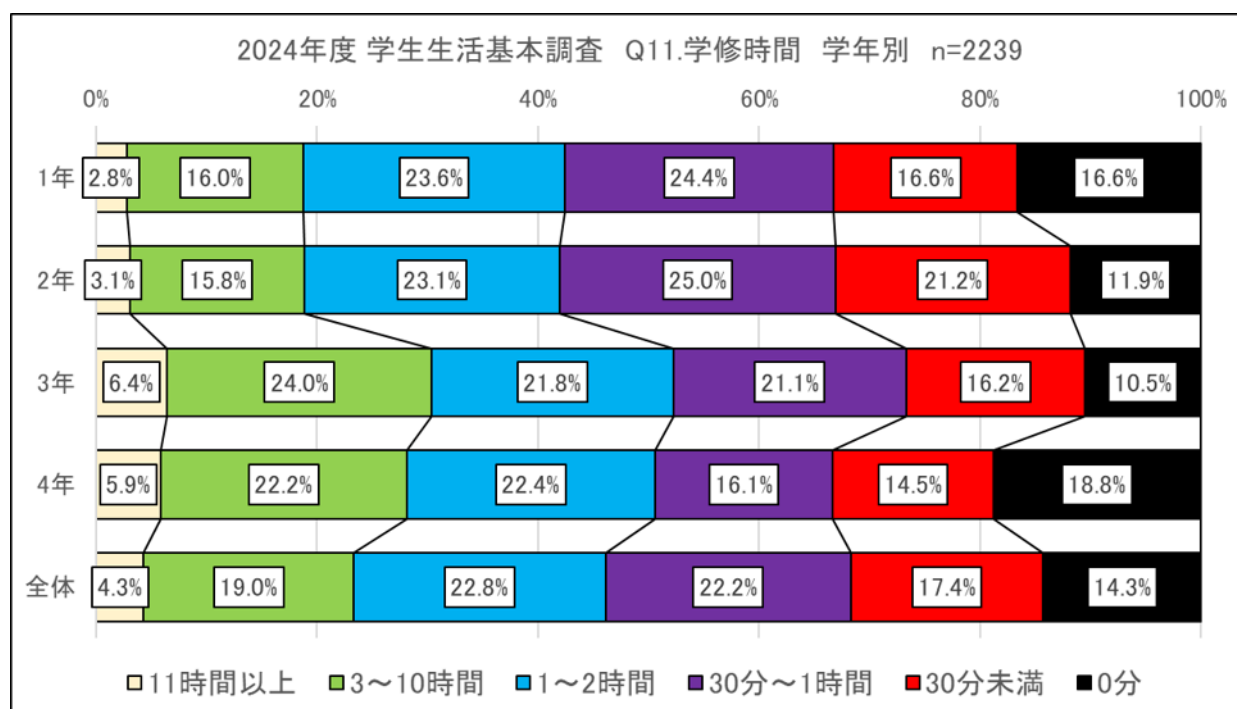
※ 過年度生を除く

2025年度秋学期学部学年別平均履修科目数

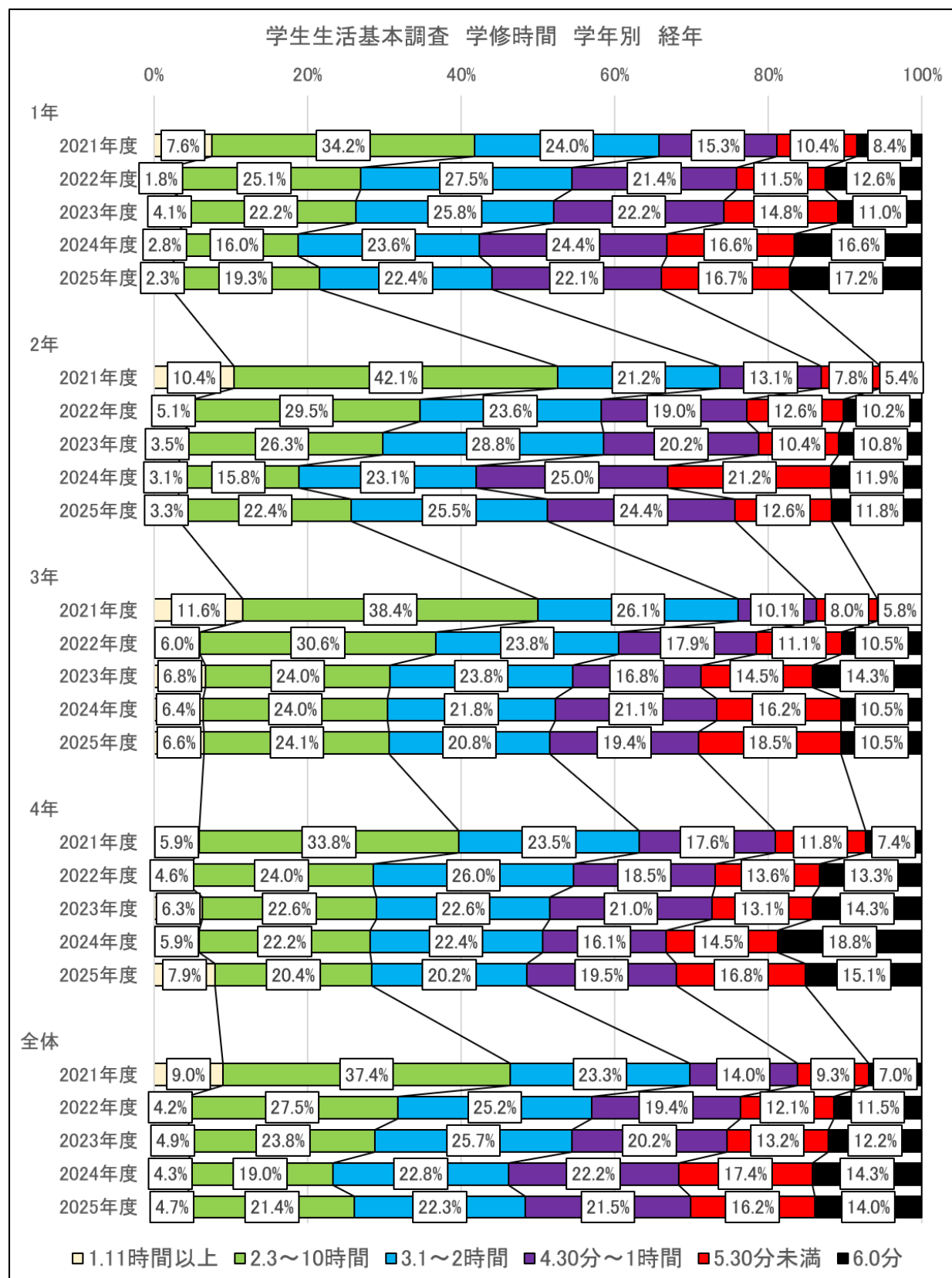
学部	1年	2年	3年	4年	計
法	10.4	11.2	8.5	2.9	7.9
経済経営	10.6	10.1	7.8	2.8	7.8
メディア情報	11.2	10.5	9.5	3.1	8.3
スポーツ科学/現代文化	13.5	13.8	10.0	4.1	10.2
心理	10.0	11.7	8.7	3.4	8.5
計	11.3	11.4	8.8	3.3	8.6



参考) 2024 年度調査



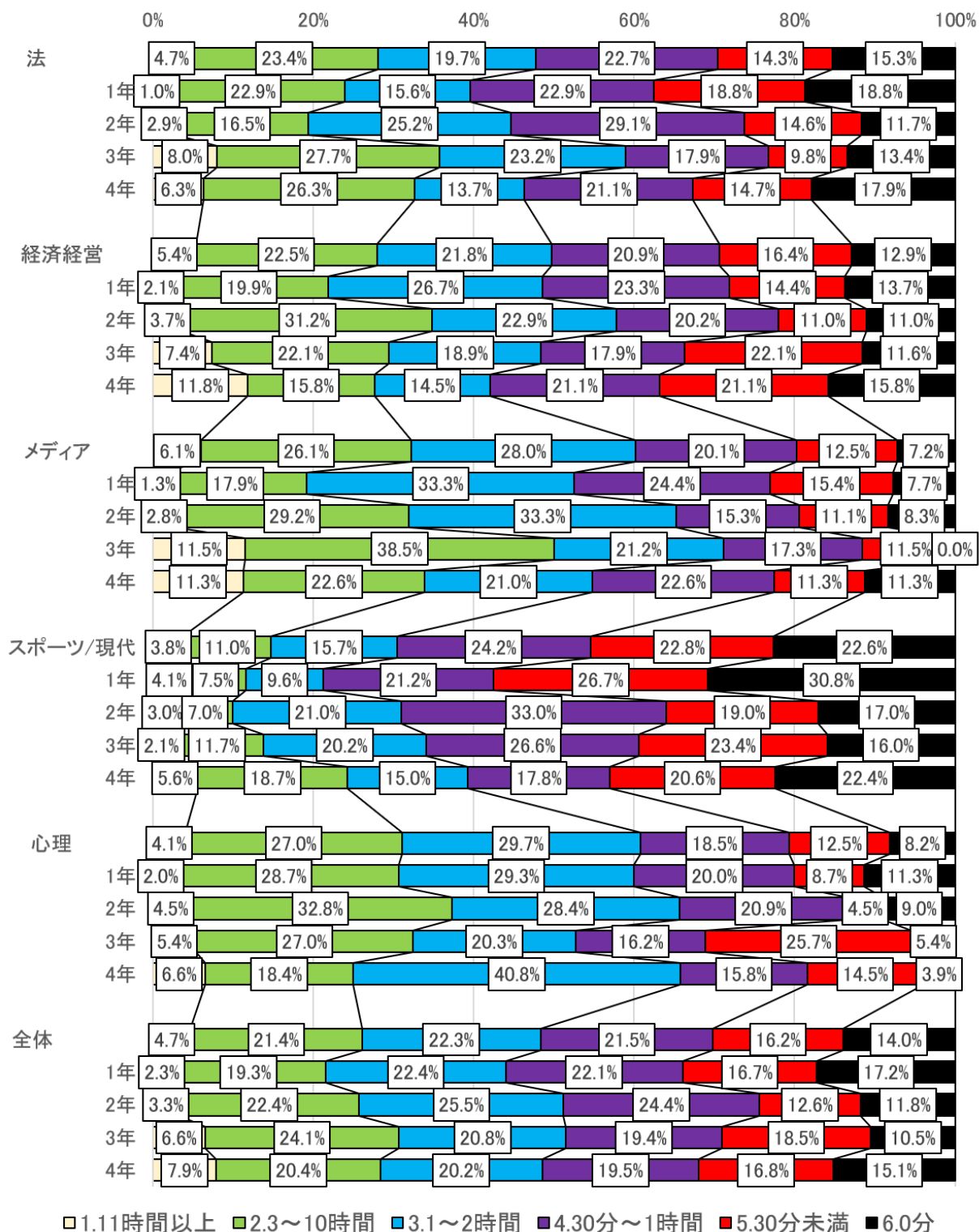
参考) 2021 年度から 2025 年度調査経年比較



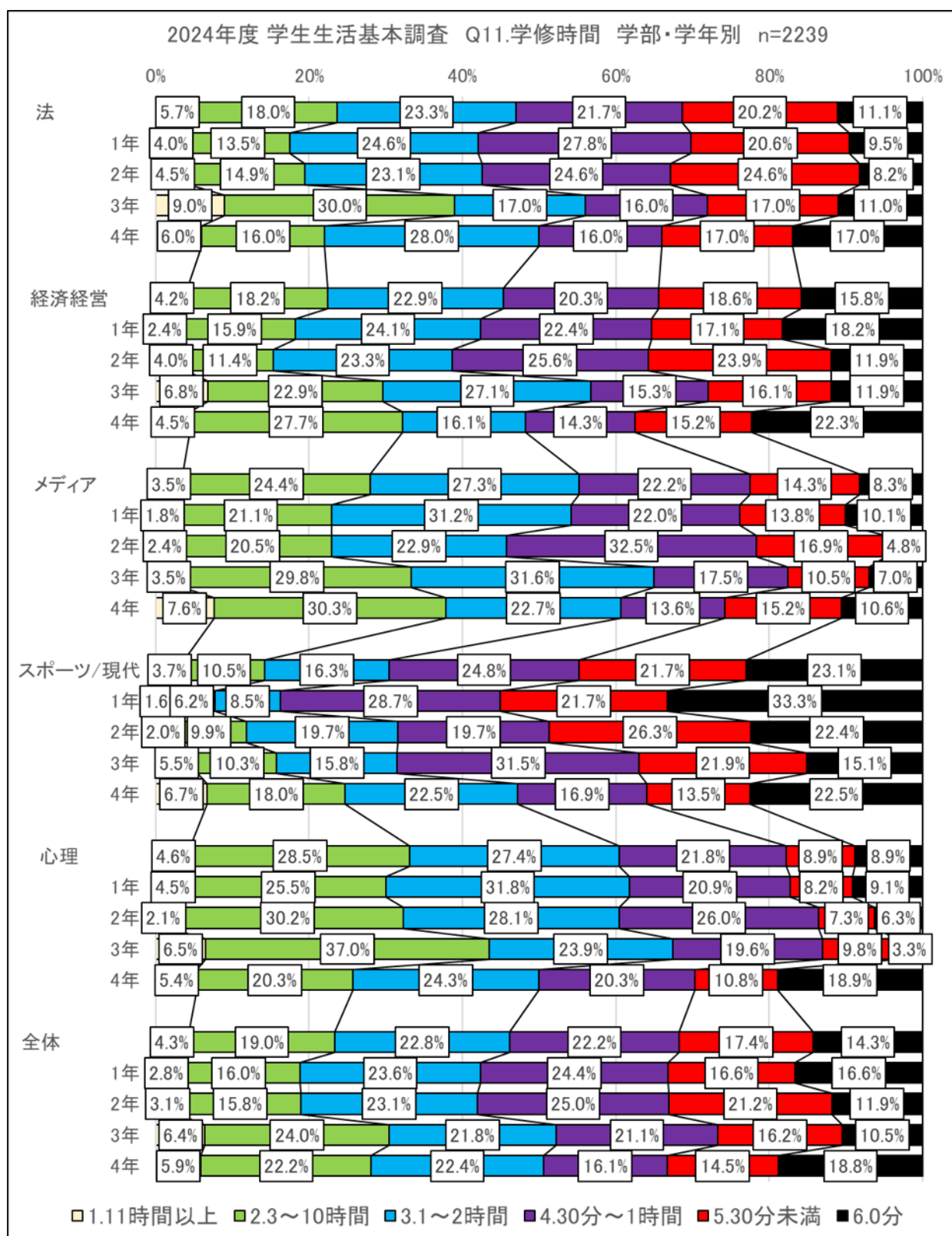
学生生活基本調査 学修時間 学年別 経年

学年	11時間以上	3～10時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	0分	計
1年							
2021年度	34	154	108	69	47	38	450
2022年度	12	163	179	139	75	82	650
2023年度	23	123	143	123	82	61	555
2024年度	18	103	152	157	107	107	644
2025年度	14	119	138	136	103	106	616
2年							
2021年度	35	141	71	44	26	18	335
2022年度	32	185	148	119	79	64	627
2023年度	17	126	138	97	50	52	480
2024年度	20	101	148	160	136	76	641
2025年度	15	101	115	110	57	53	451
3年							
2021年度	16	53	36	14	11	8	138
2022年度	30	152	118	89	55	52	496
2023年度	27	96	95	67	58	57	400
2024年度	33	123	112	108	83	54	513
2025年度	28	103	89	83	79	45	427
4年							
2021年度	4	23	16	12	8	5	68
2022年度	16	83	90	64	47	46	346
2023年度	16	57	57	53	33	36	252
2024年度	26	98	99	71	64	83	441
2025年度	33	85	84	81	70	63	416
全体							
2021年度	89	371	231	139	92	69	991
2022年度	90	583	535	411	256	244	2119
2023年度	83	402	433	340	223	206	1687
2024年度	97	425	511	496	390	320	2239
2025年度	90	408	426	410	309	267	1910

2025年度 学生生活基本調査 Q11.学修時間 学部・学年別 n=1910



参考) 2024 年度調査

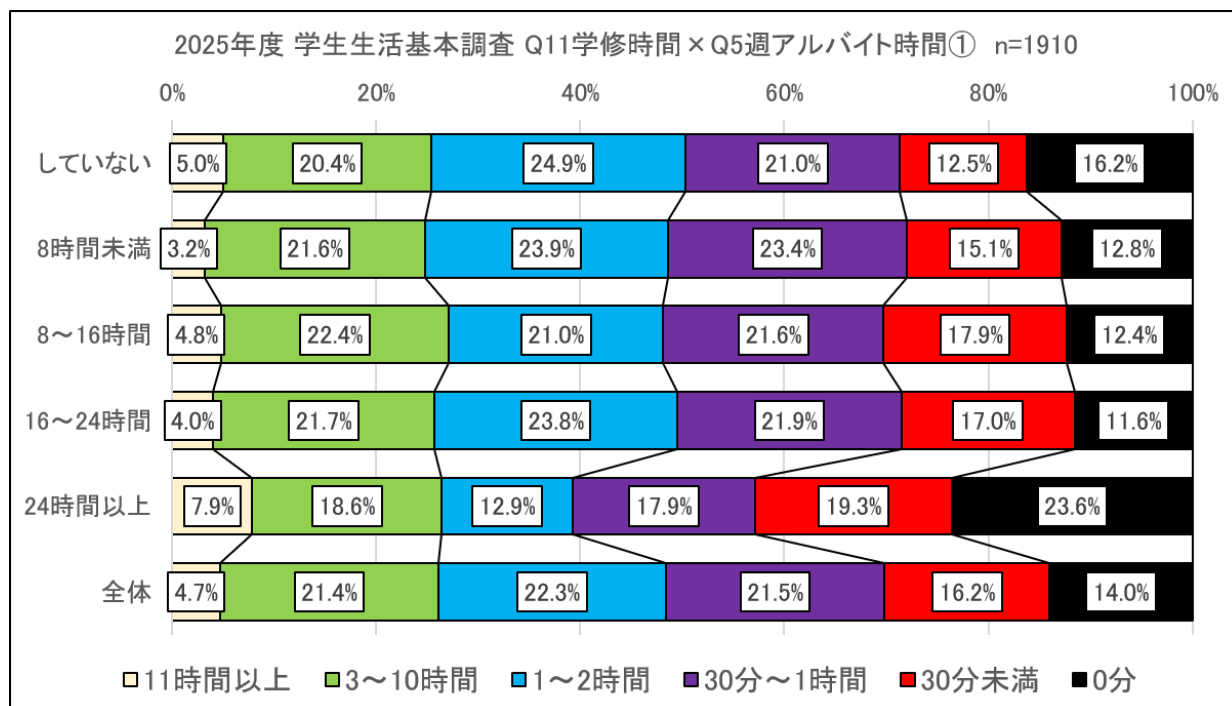


(4) 週当たりアルバイト時間とのクロス集計

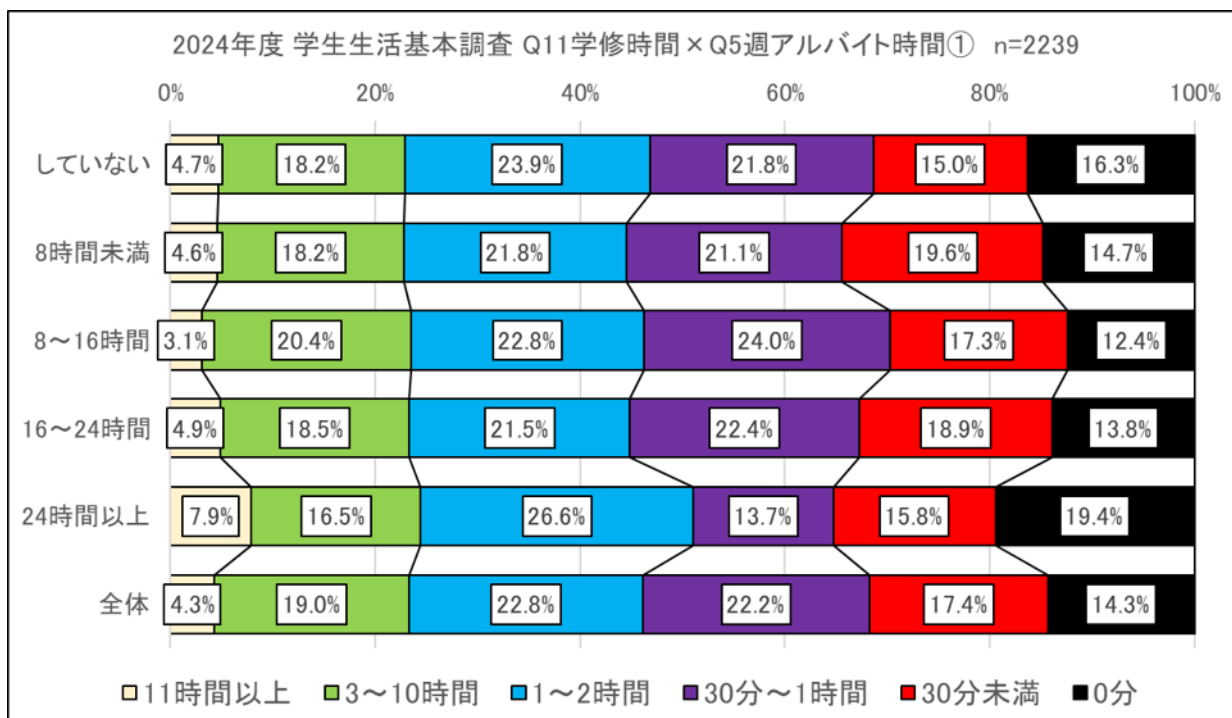
学修時間と週当たりのアルバイト時間についてのクロス集計を行いました。

週当たりのアルバイト時間の構成比は「していない」24%、「8時間未満」11%、「8～16時間」35%、「16～24時間」22%、「24時間以上」7%であり、2024年度調査に比べ、「していない」を選択した層の割合が3%高くなっていますが、経年では2023年度以降、アルバイト時間長期化の傾向が継続しています。

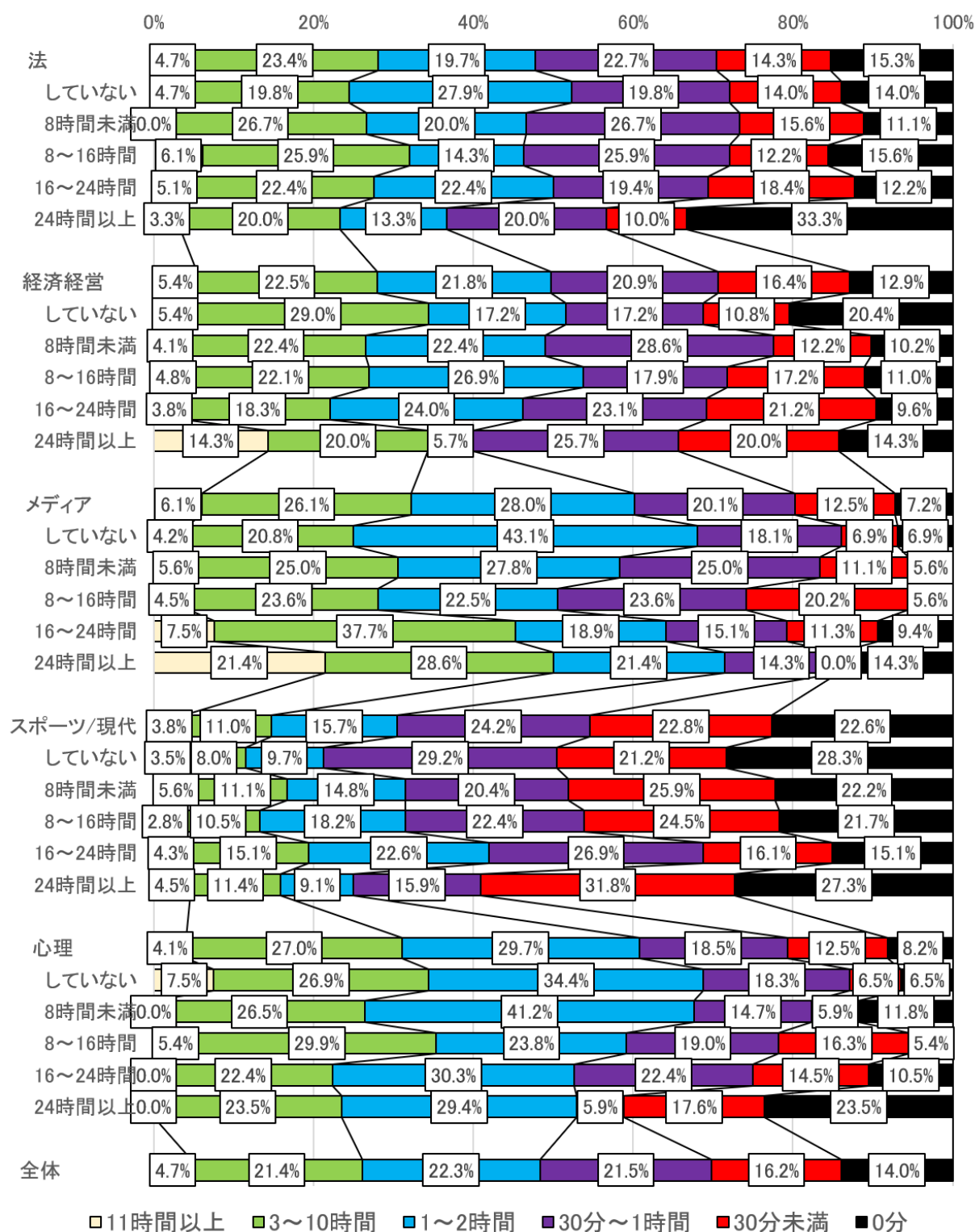
学修時間が1時間未満（「0分」「30分未満」「30分～1時間未満」）の割合は、コロナ禍以前はアルバイト時間が増えるにつれて、高くなる傾向（2019年度は「0分」のみ該当）が続いていましたが、2020年度以降は「していない」を選択した層で割合が高くなる傾向が続いています。また、アルバイト時間「24時間以上」を選択した層で、学修時間「0分」及び「11時間以上」を選択した層の割合が最も高くなりました。



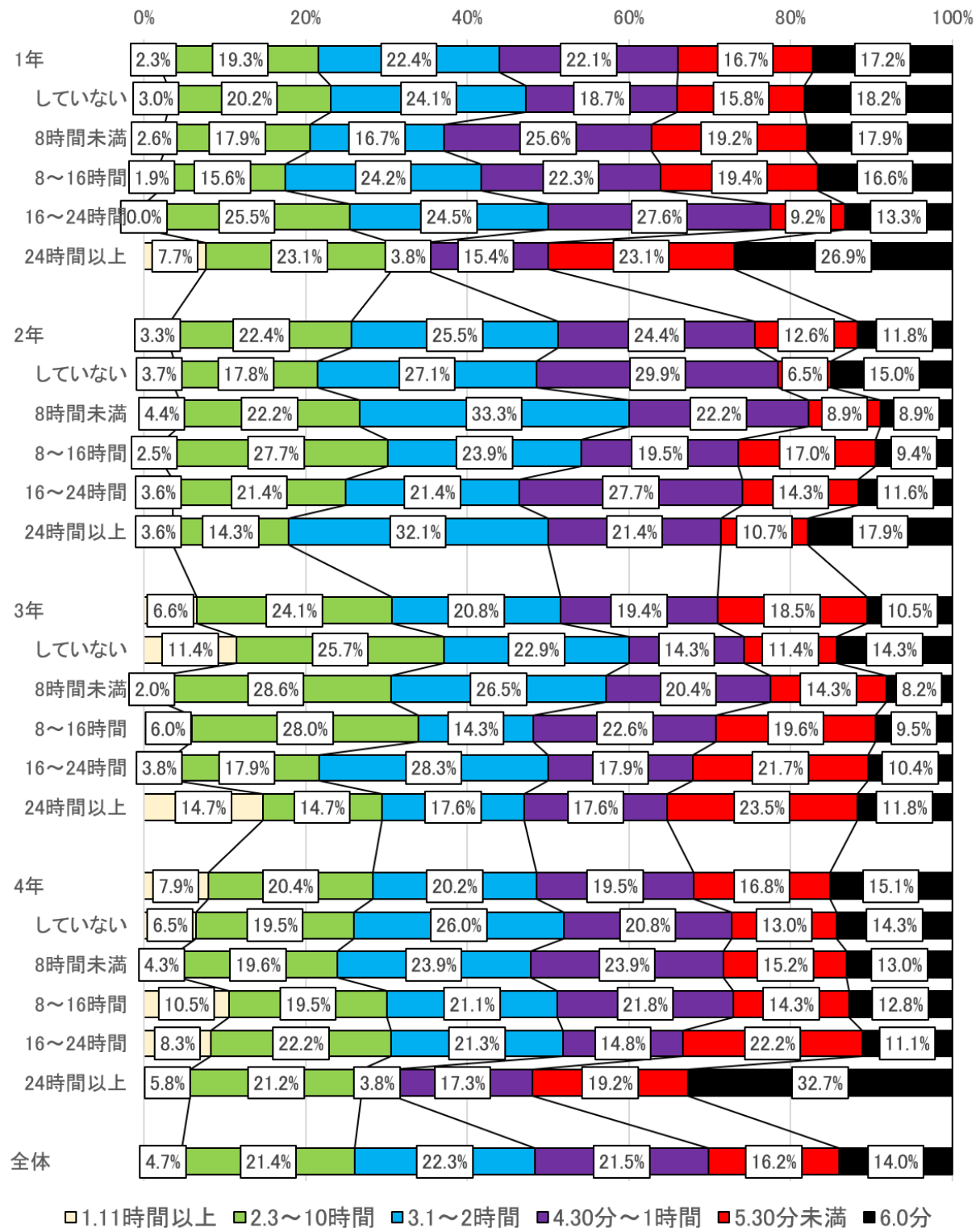
参考) 2024年度調査



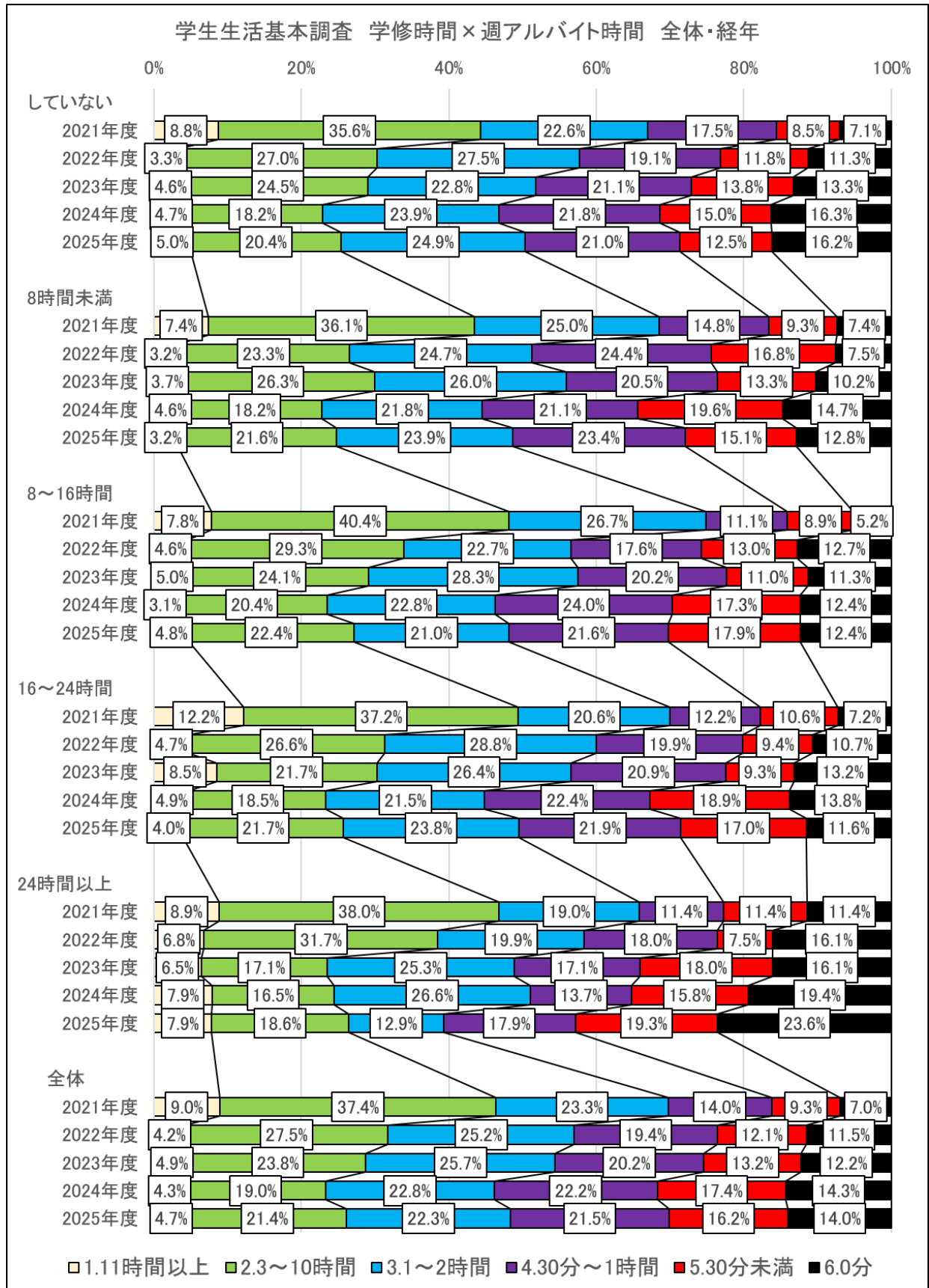
2025年度 学生生活基本調査 Q11.学修時間×Q5週アルバイト時間② n=1910



2025年度 学生生活基本調査 Q11.学修時間×Q5週アルバイト時間③ n=1910



参考) 2021 年度から 2025 年度調査経年比較

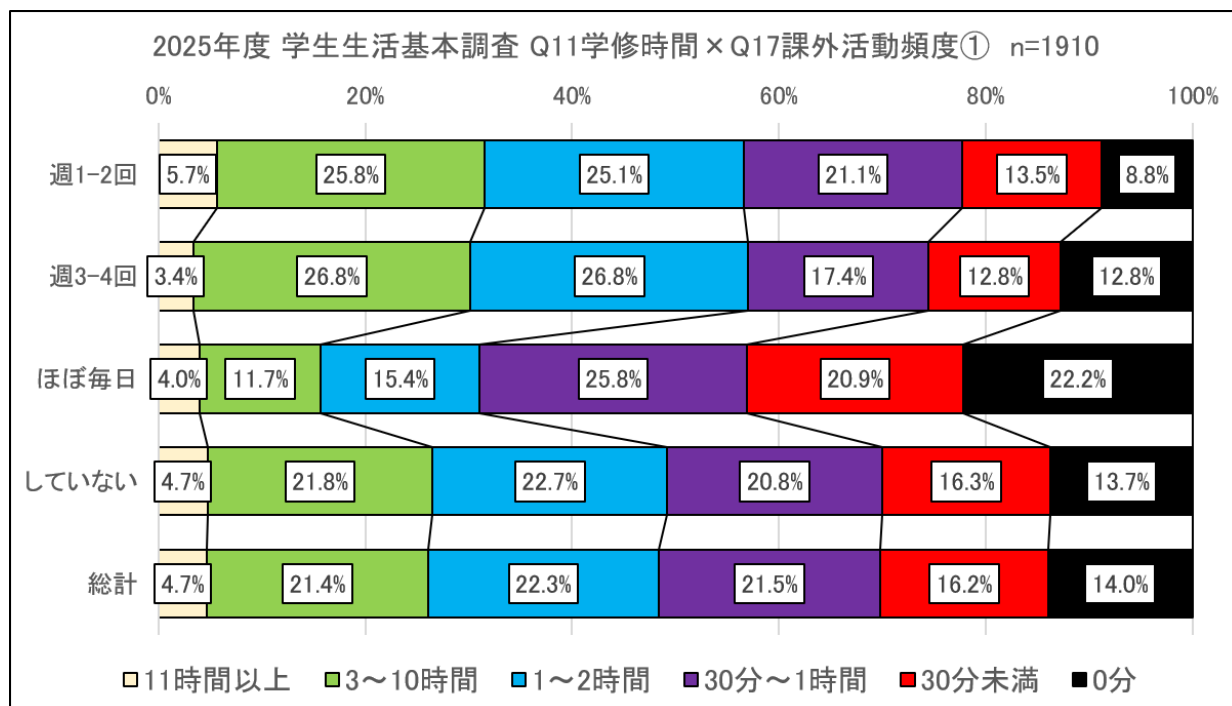


(5) 週当たり課外活動頻度とのクロス集計

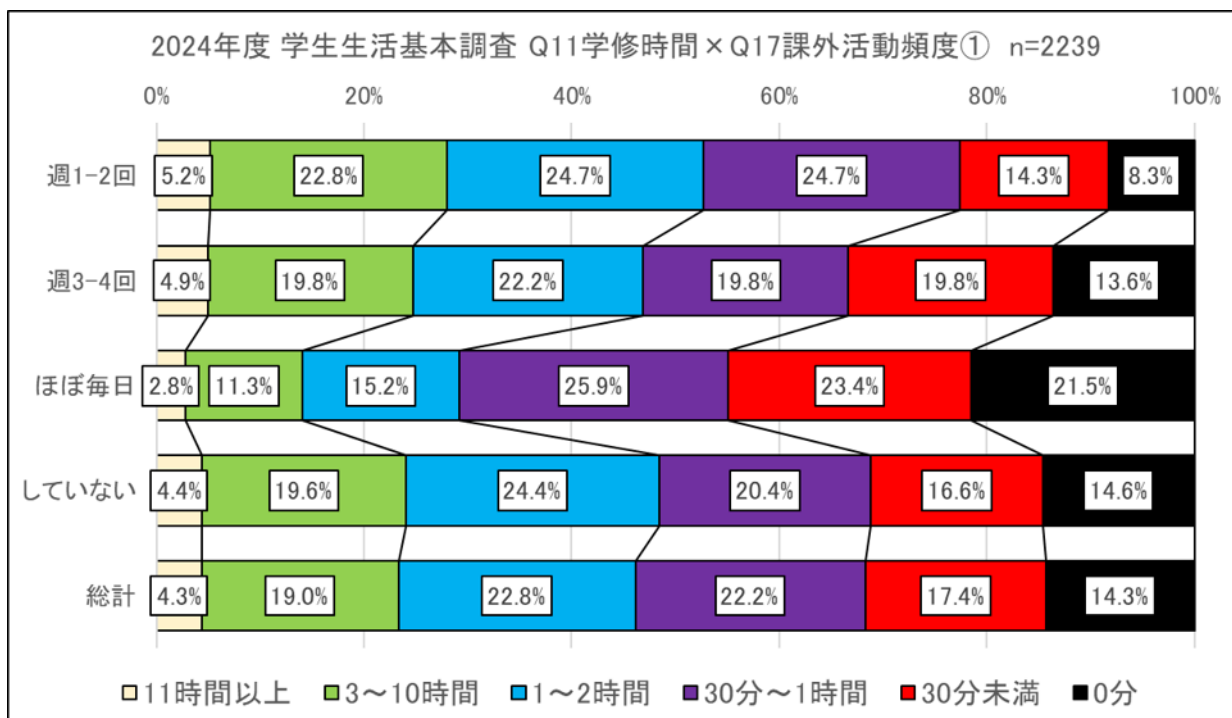
学修時間と週当たりの課外活動頻度についてのクロス集計を行いました。2021年度調査では、コロナ禍により課外活動頻度に関する設問は設けておらず、コロナ以前と設問形式が異なることから経年比較は4年分のグラフを掲載しています。

週当たりの課外活動頻度の構成比は「していない」53%、「週1-2回」22%、「週3-4回」8%、「ほぼ毎日」17%で過去2年とほぼ同水準でしたが、学部で構成が異なり、スポーツ科学／現代文化学部では、「ほぼ毎日」40%、「していない」33%ですが、他の4学部は「していない」が60%前後を占めています。

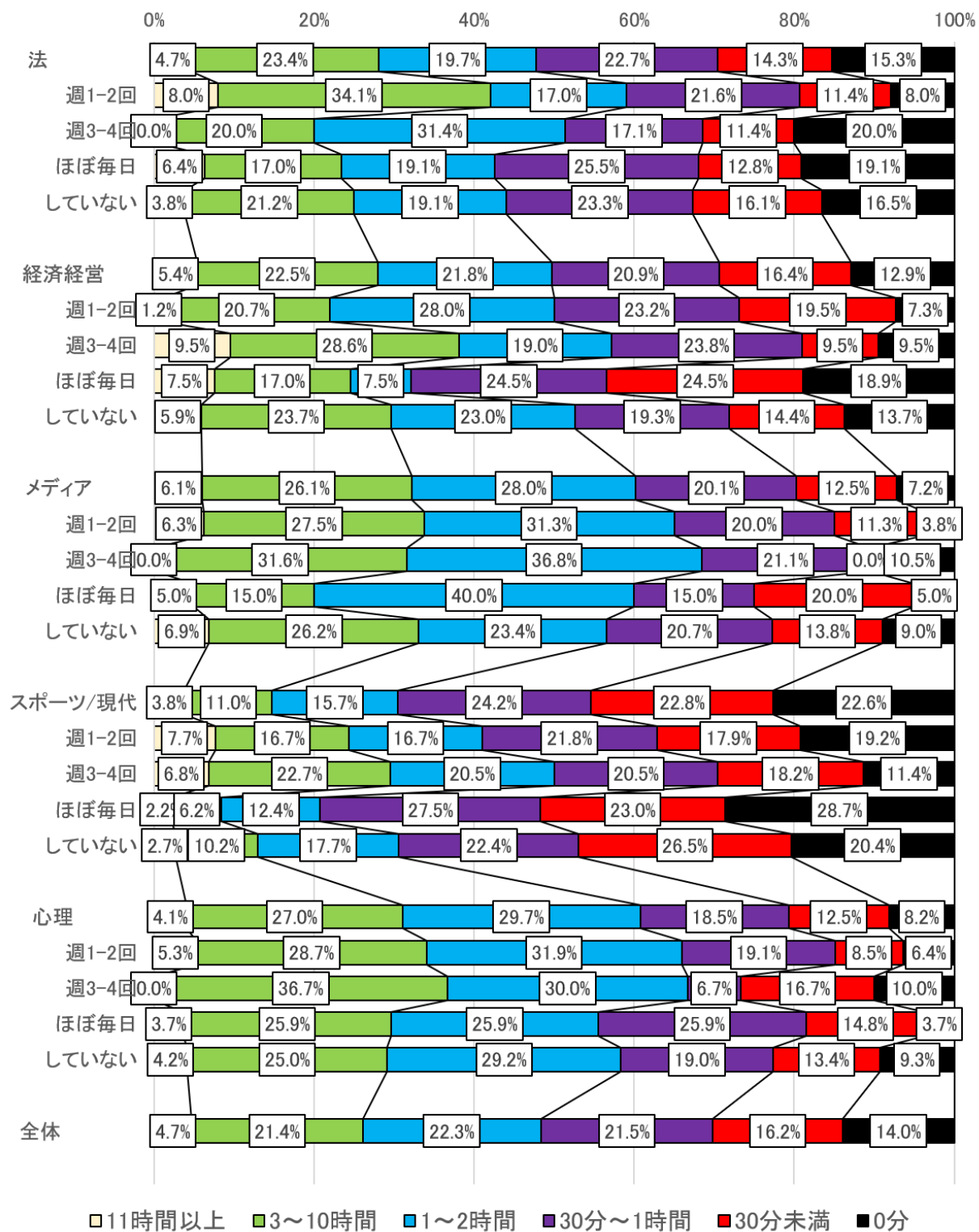
学修時間が1時間未満の割合は、課外活動頻度が増えるにつれ高くなりますが、学修時間3時間以上の割合は「ほぼ毎日」以外は大きな差はなく、過去2年とほぼ同様の傾向を示しています。



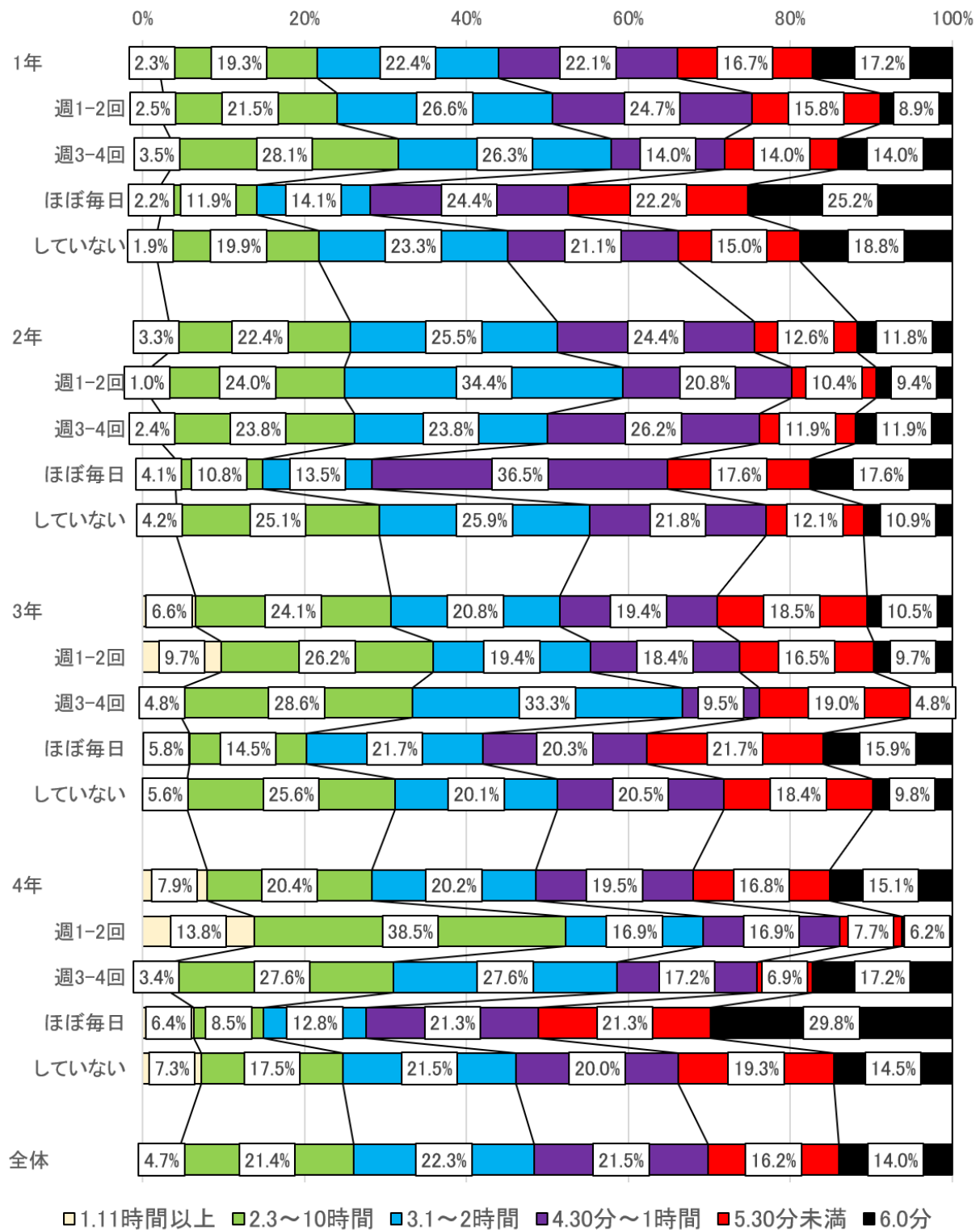
参考) 2024 年度調査



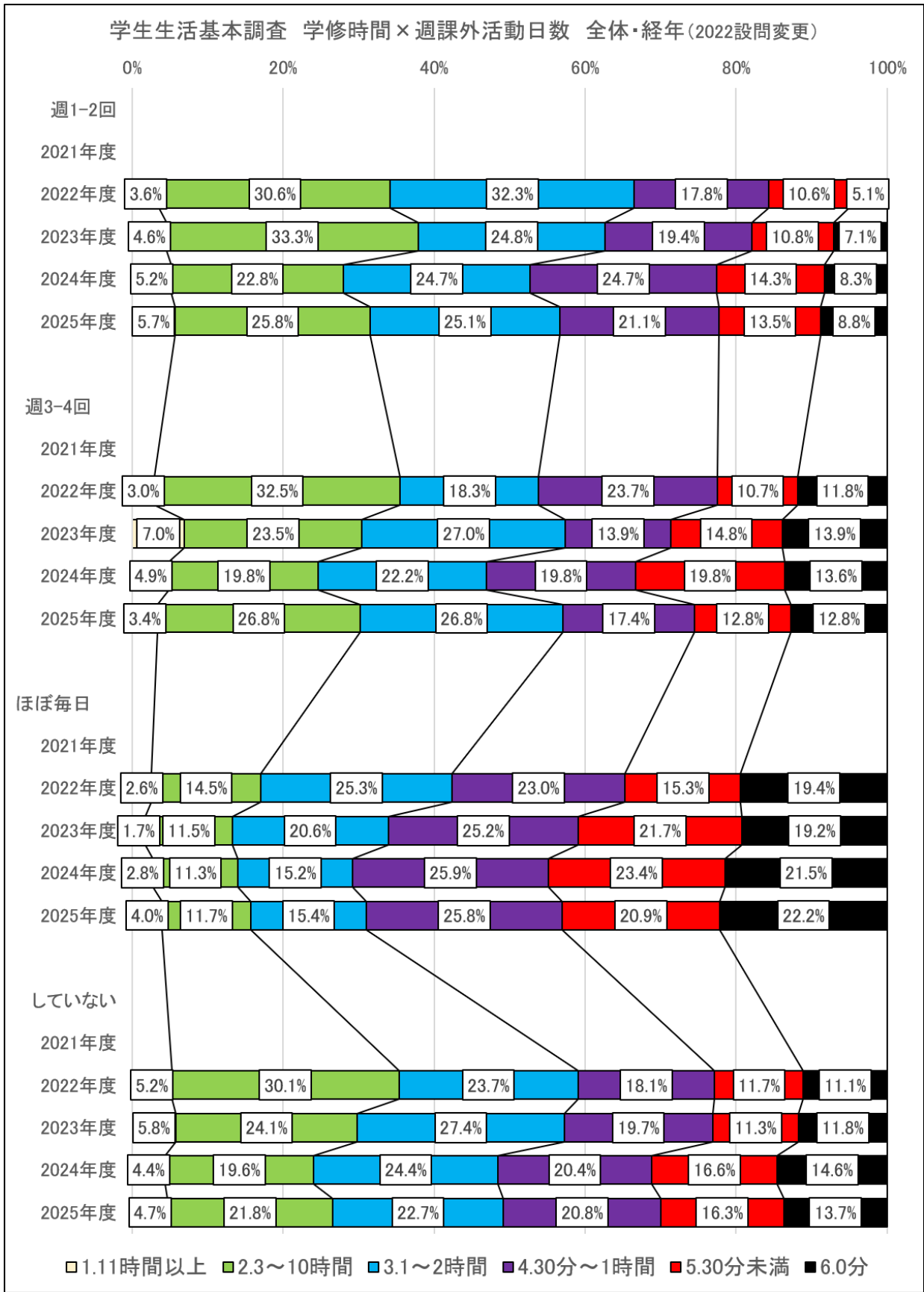
2025年度 学生生活基本調査 Q11.学修時間×Q17課外活動頻度② n=1910



2025年度 学生生活基本調査 Q11 学修時間×Q17週課外活動頻度③ n=1910



参考) 2022 年度から 2025 年度調査経年比較

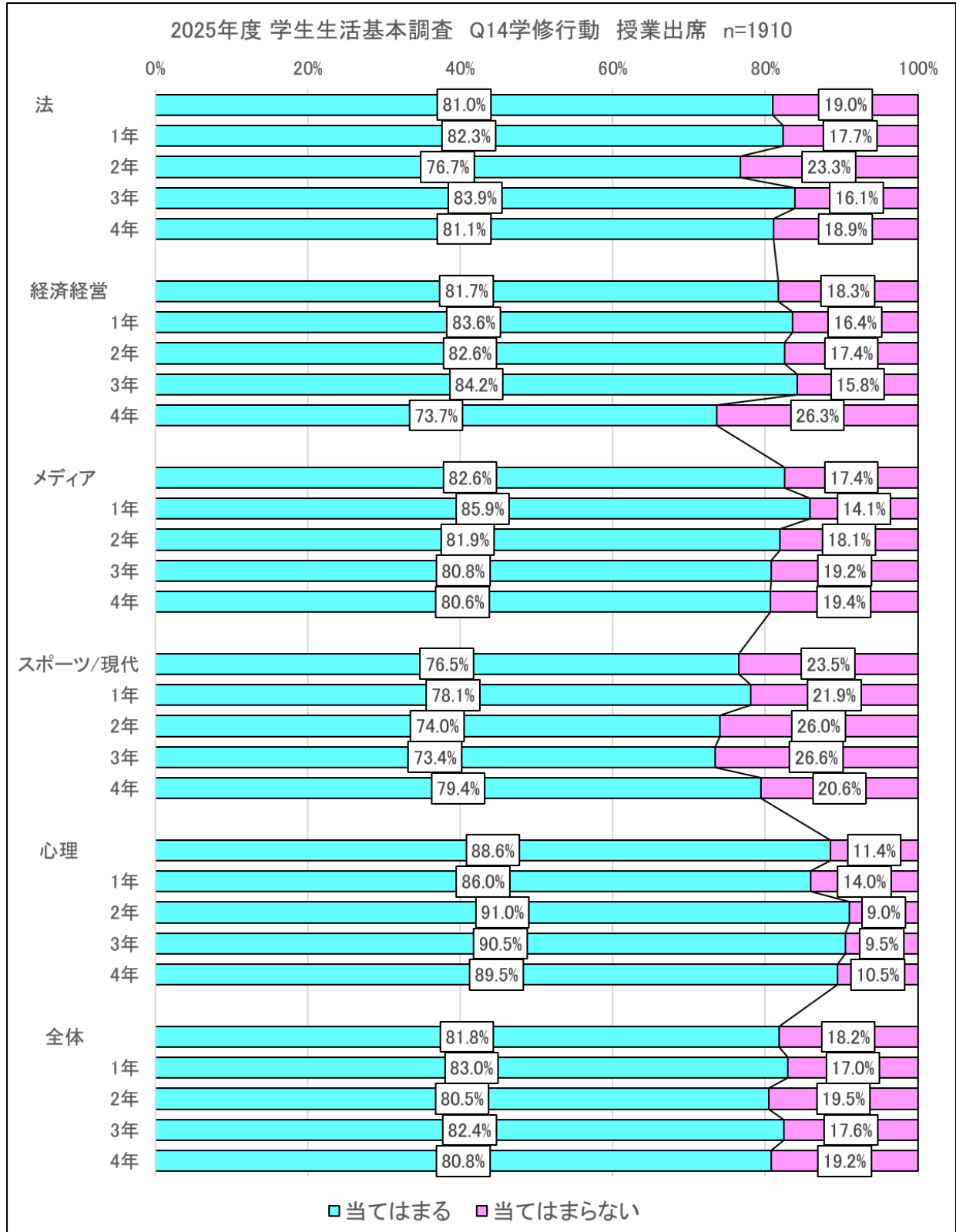


注) 2019 年度以前は選択肢違い、2020～2021 年度はコロナ禍のため当該設問なし

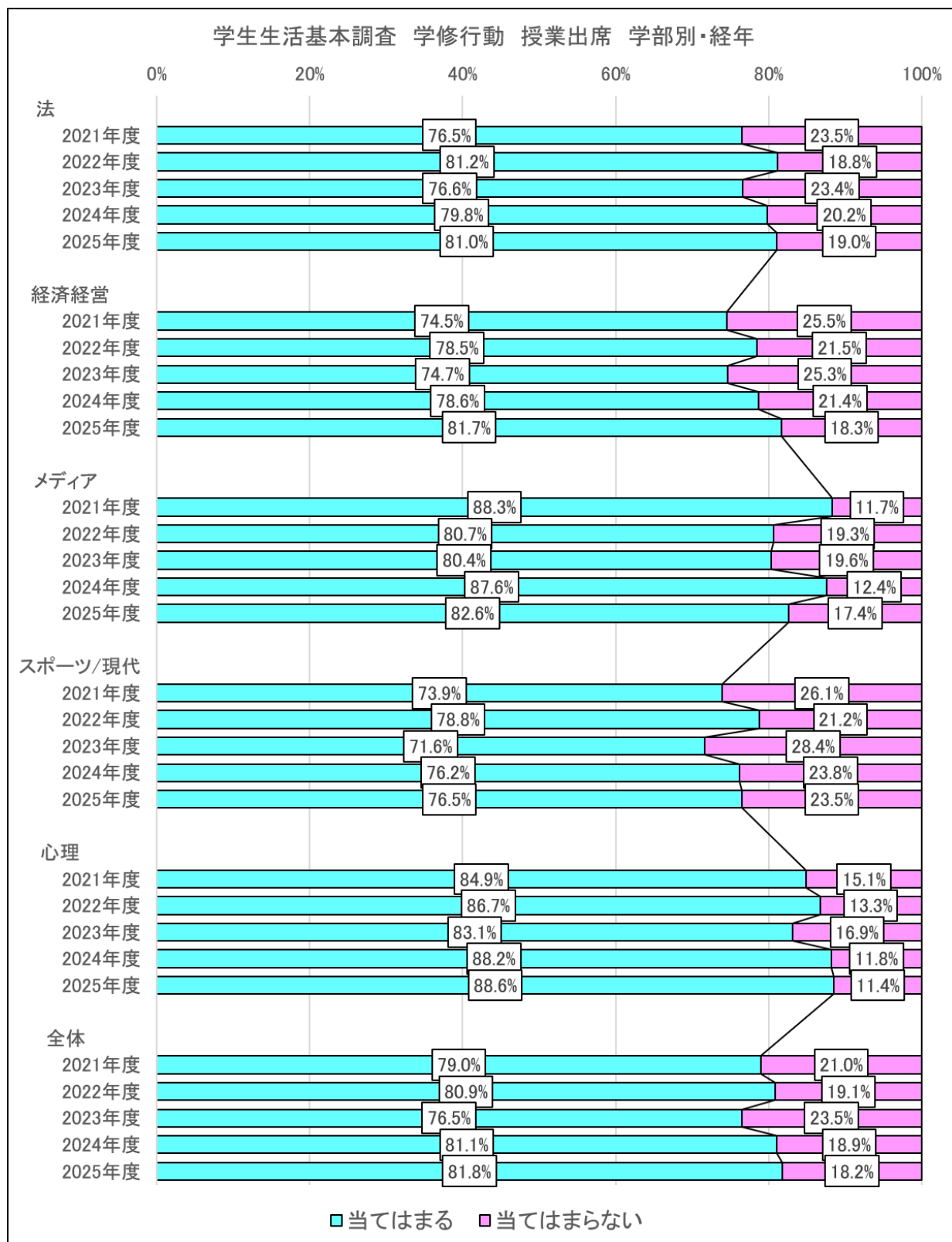
4. 学修行動に関する調査結果概要

(1) できる限り授業に出席する

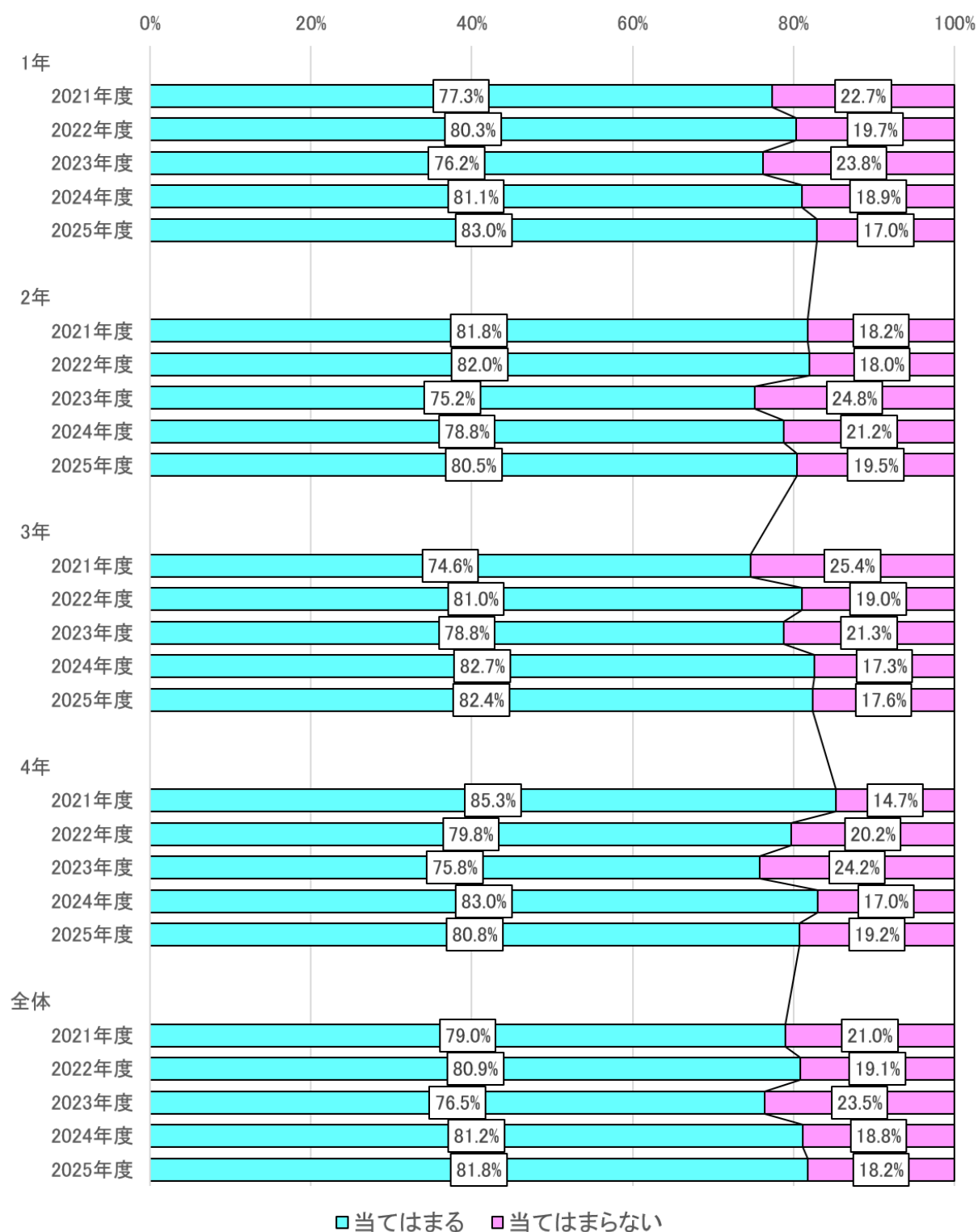
できる限り授業に出席するは、「当てはまる」を選択した層の割合が82%で過去2年とほぼ同水準、学部別では心理学部が89%で最も高くなりました。学年別では1.3年次の「当てはまる」を選択した層の割合がやや高くなっています。経年では、学部別・学年別ともに2023年度に低下した「当てはまる」を選択した層の割合が高まっています。



参考) 2021 年度から 2025 年度調査経年比較

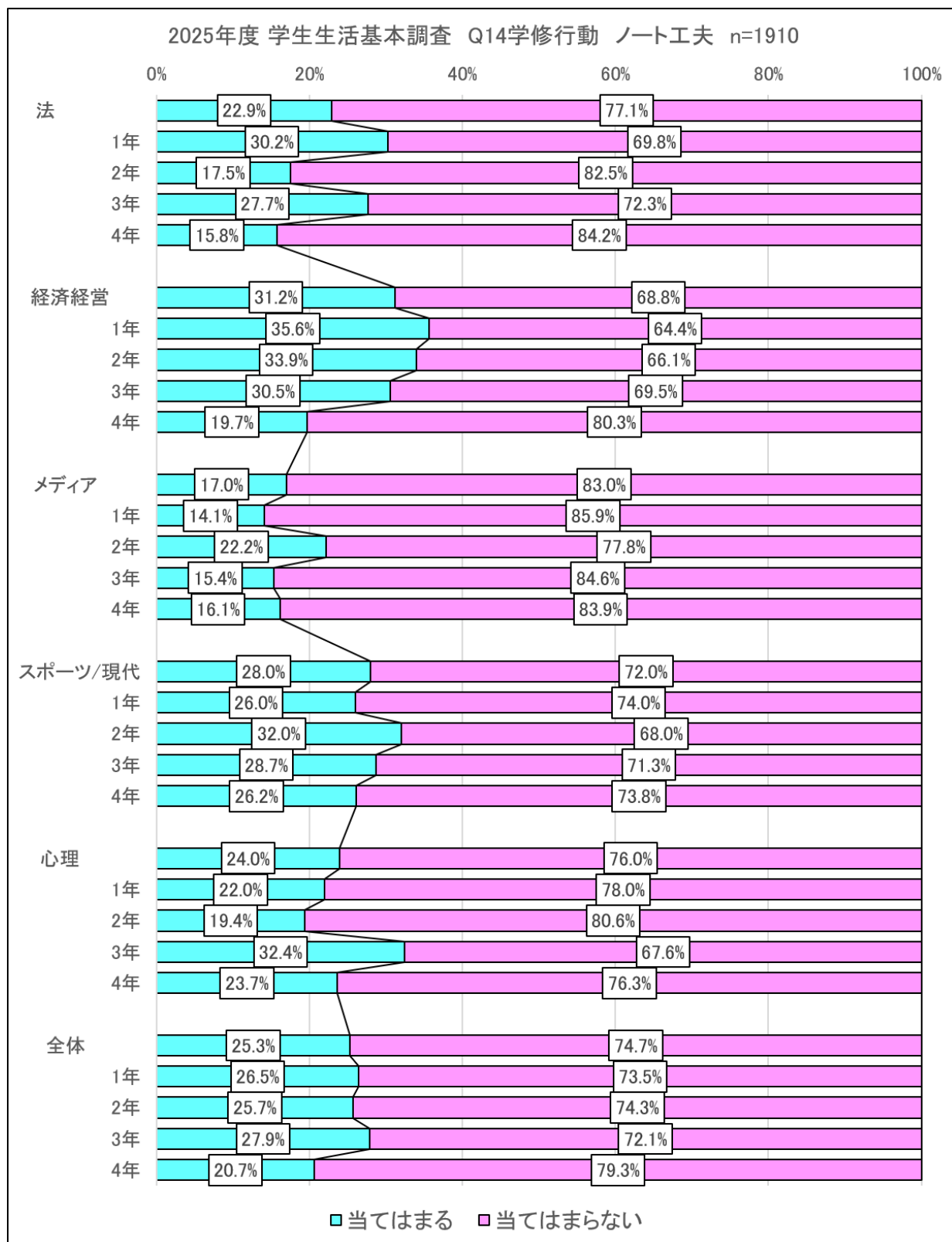


学生生活基本調査 学修行動 授業出席 学年別・経年

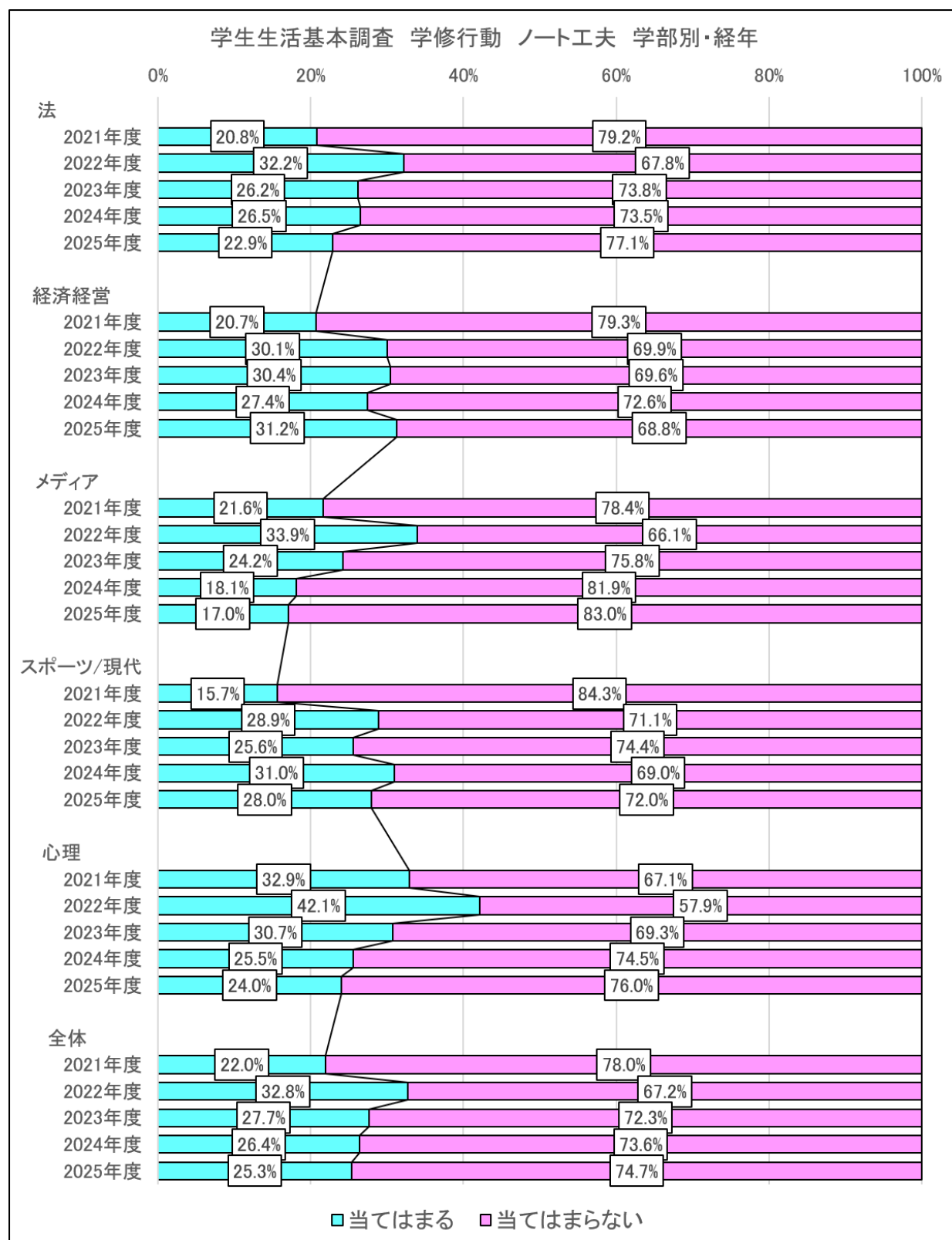


(2) ノートの取り方を工夫する

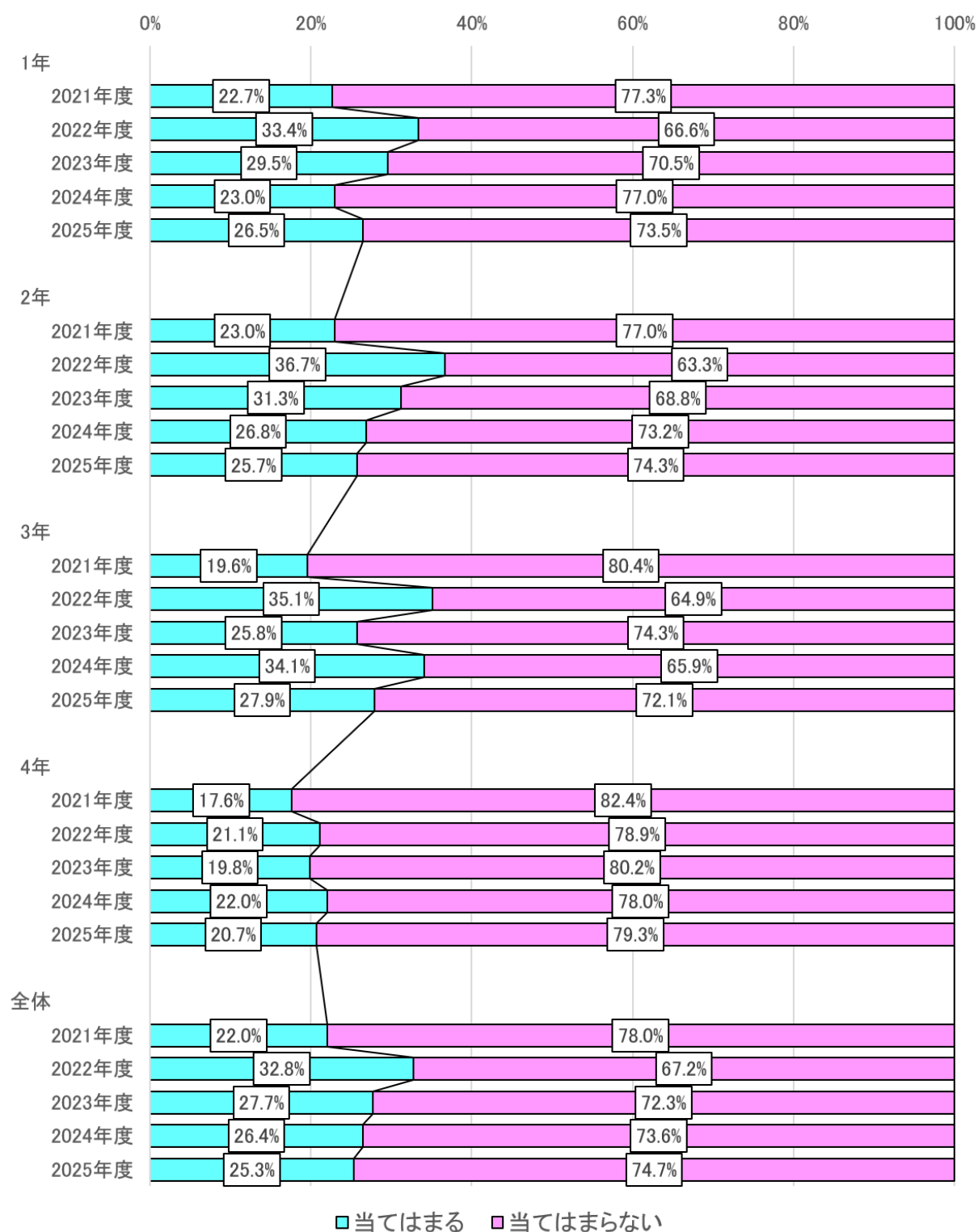
「当てはまる」を選択した層の割合は全体で 25%と前年度より-1%低下しています。学部別では、経済経営学部、スポーツ科学部がやや高く。メディア情報学部が 17%で低くなっています。学年別では、3 年次が 28%で他の 3 学年を若干上回っています。経年では、「当てはまる」を選択した層の割合は、微減傾向と言えます。



参考) 2021 年度から 2025 年度調査経年比較

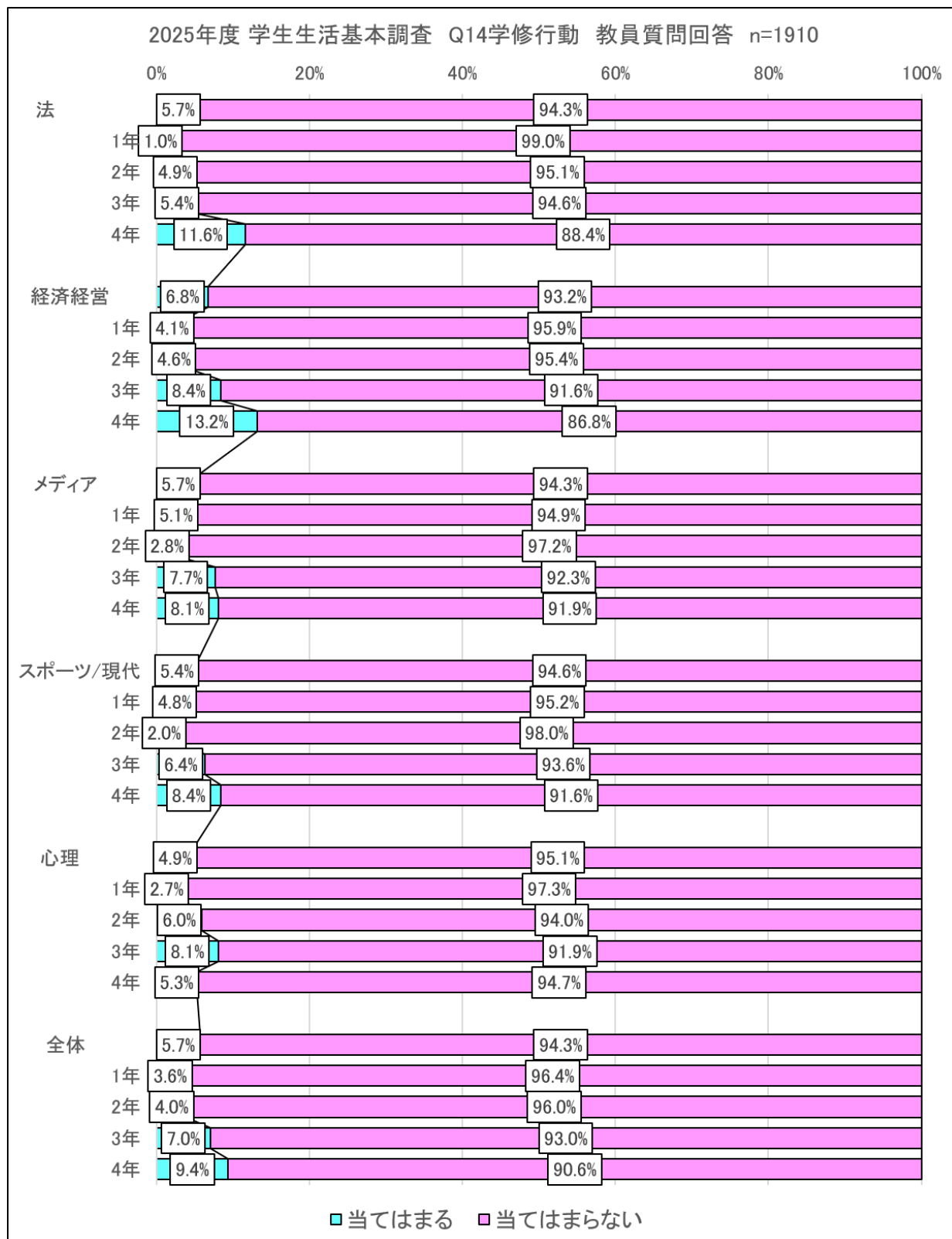


学生生活基本調査 学修行動 ノート工夫 学年別・経年



(3) 授業中教員の質問に答える

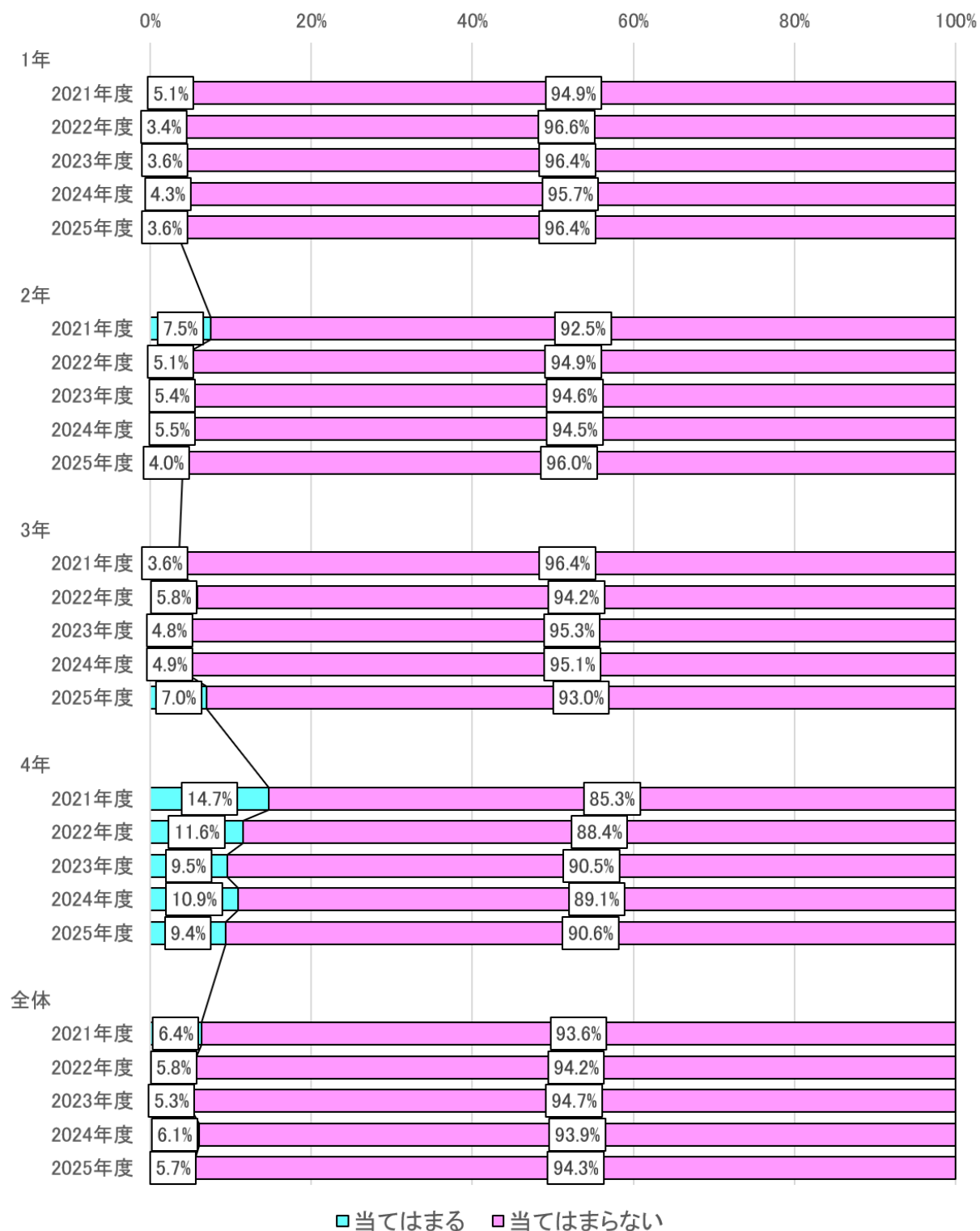
全体では「当てはまる」が6%、「当てはまらない」が94%となっています。学部別では顕著な差は見られませんでした。学年別では4年次が9%であり、1年次は4%で低くなっています。経年では、「当てはまる」を選択した者の割合が微減傾向にあると言えます。



参考) 2021 年度から 2025 年度調査経年比較

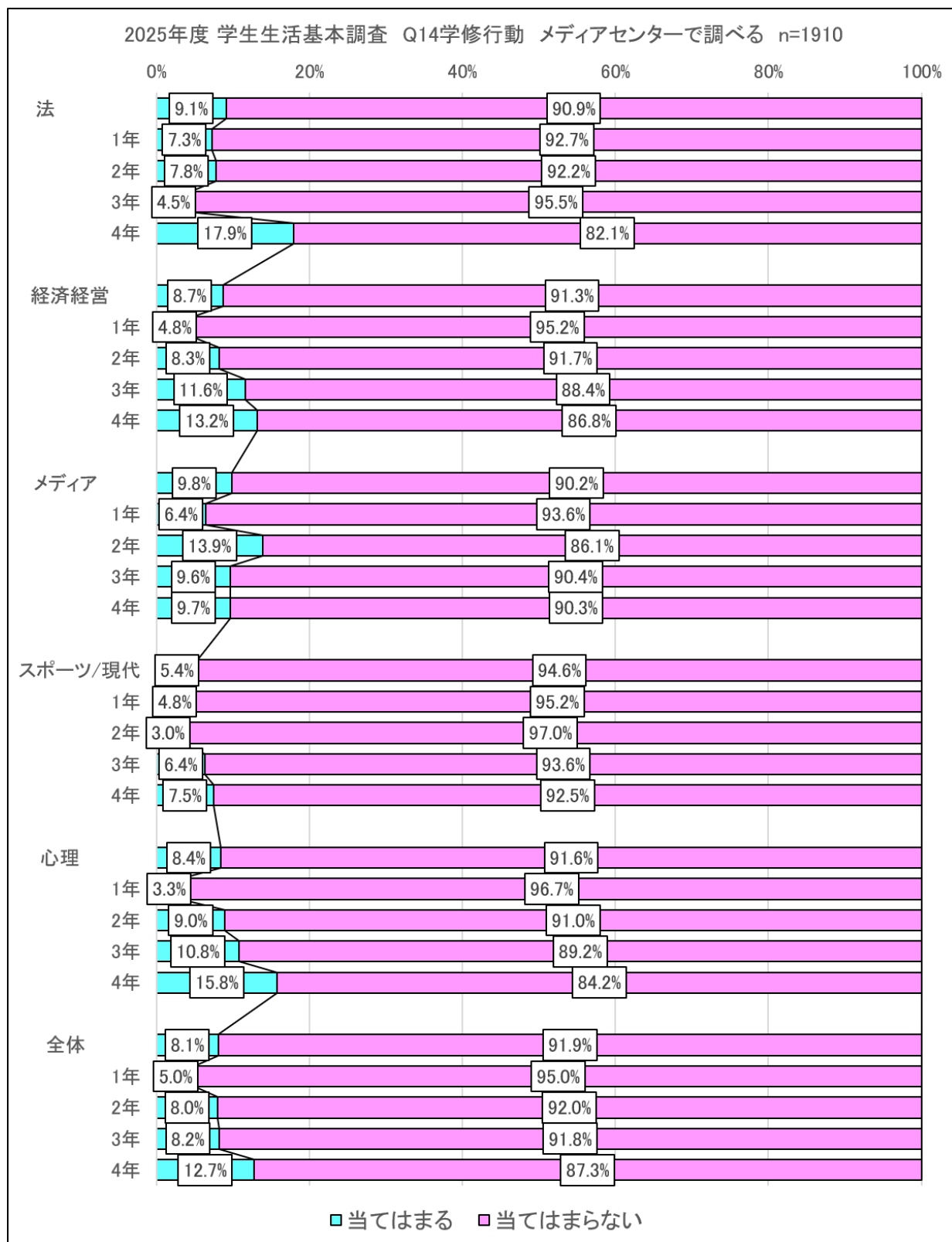


学生生活基本調査 学修行動 教員質問回答 学年別・経年



(4) メディアセンターで調べる

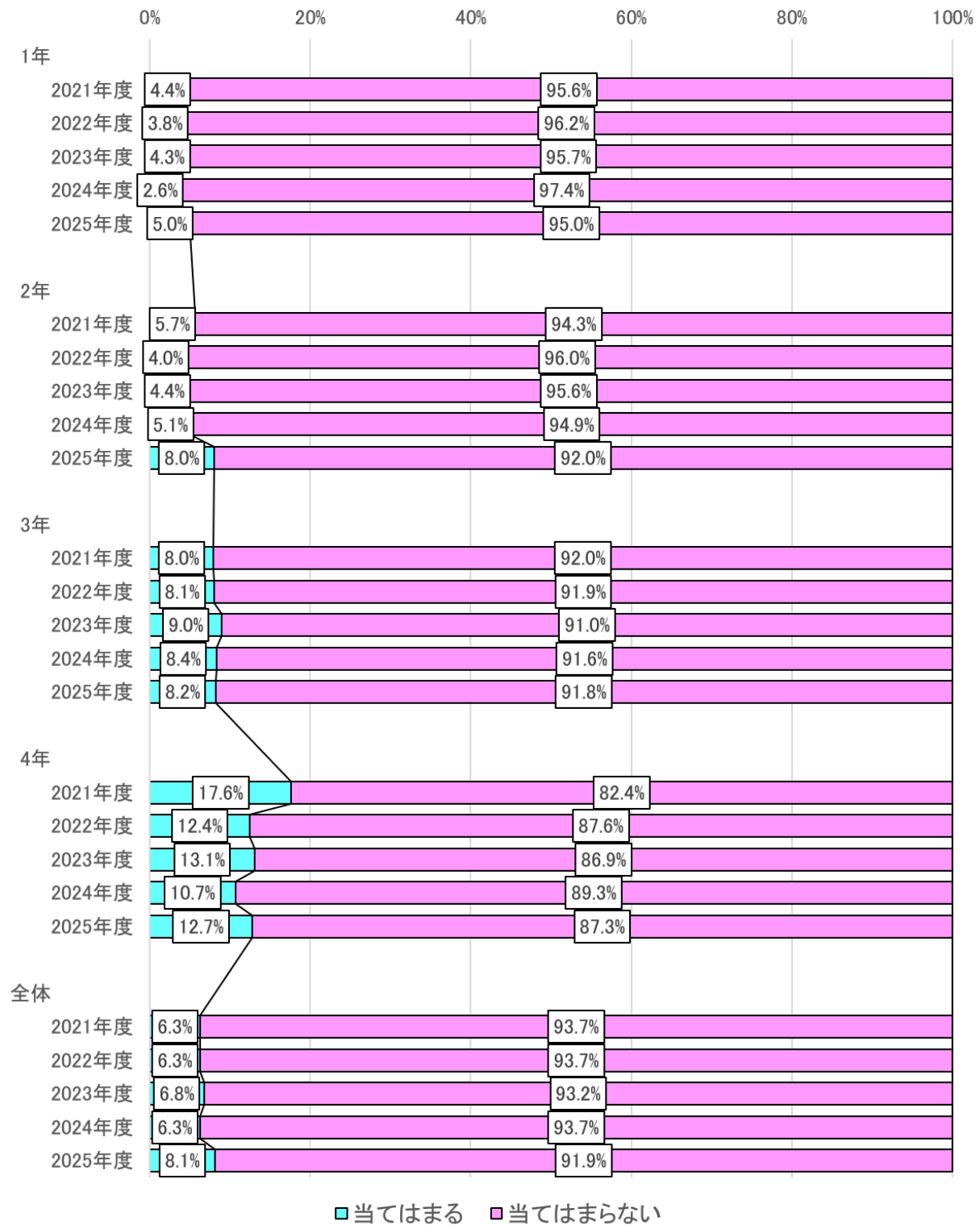
全体で「当てはまる」が8%、「当てはまらない」が92%となっています。学部別では、スポーツ科学部で「当てはまる」を選択した層の割合がやや低くなっています。学年別では4年次、特に心・法の2学部で「当てはまる」を選択した層の割合が高くなっており、卒業論文・ゼミ論文作成の関係と考えられます。経年では過去5年間に比べ、「当てはまる」を選択した層の割合が2%高まりました。



参考) 2021 年度から 2025 年度調査経年比較

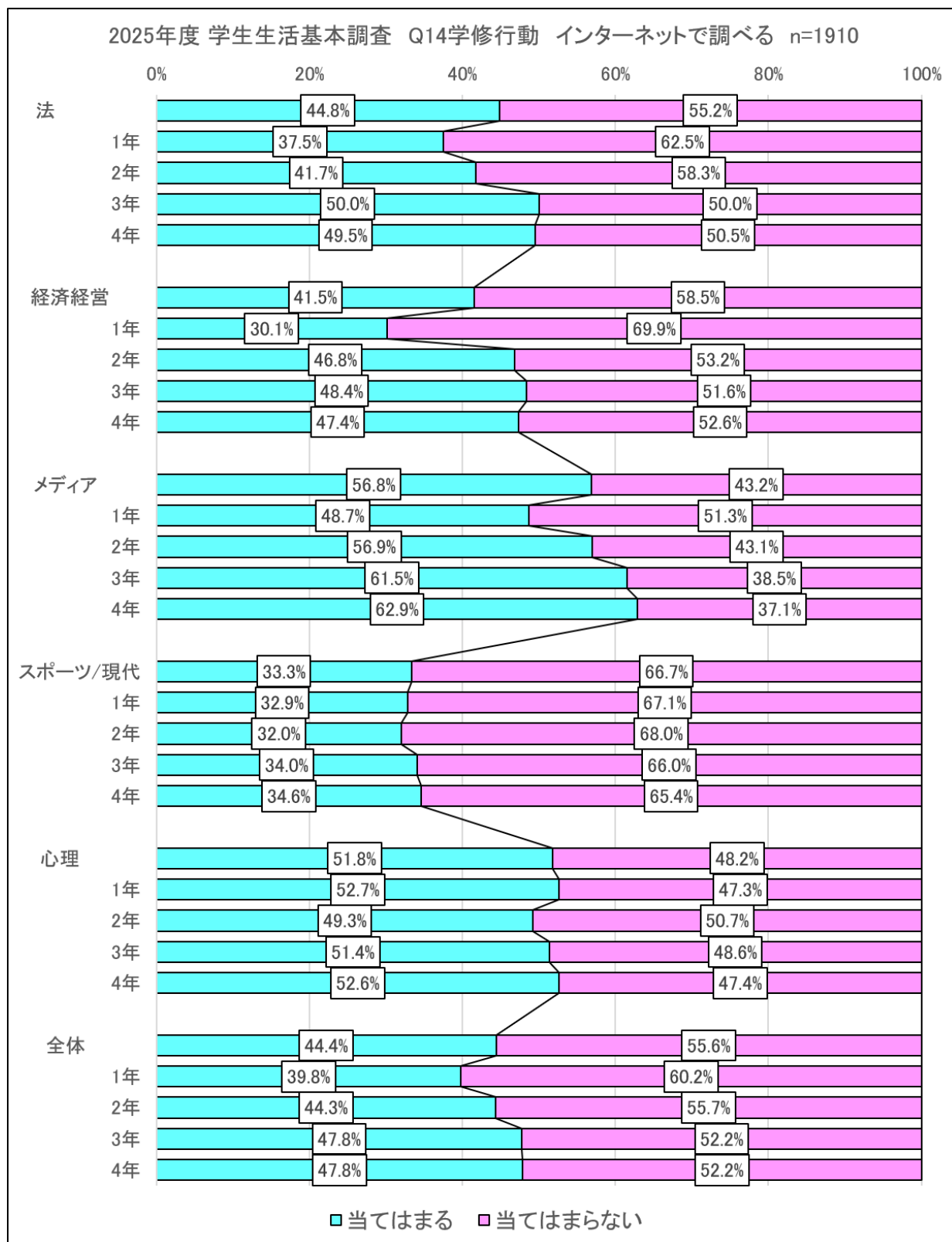


学生生活基本調査 学修行動 メディアセンターで調べる 学年別・経年

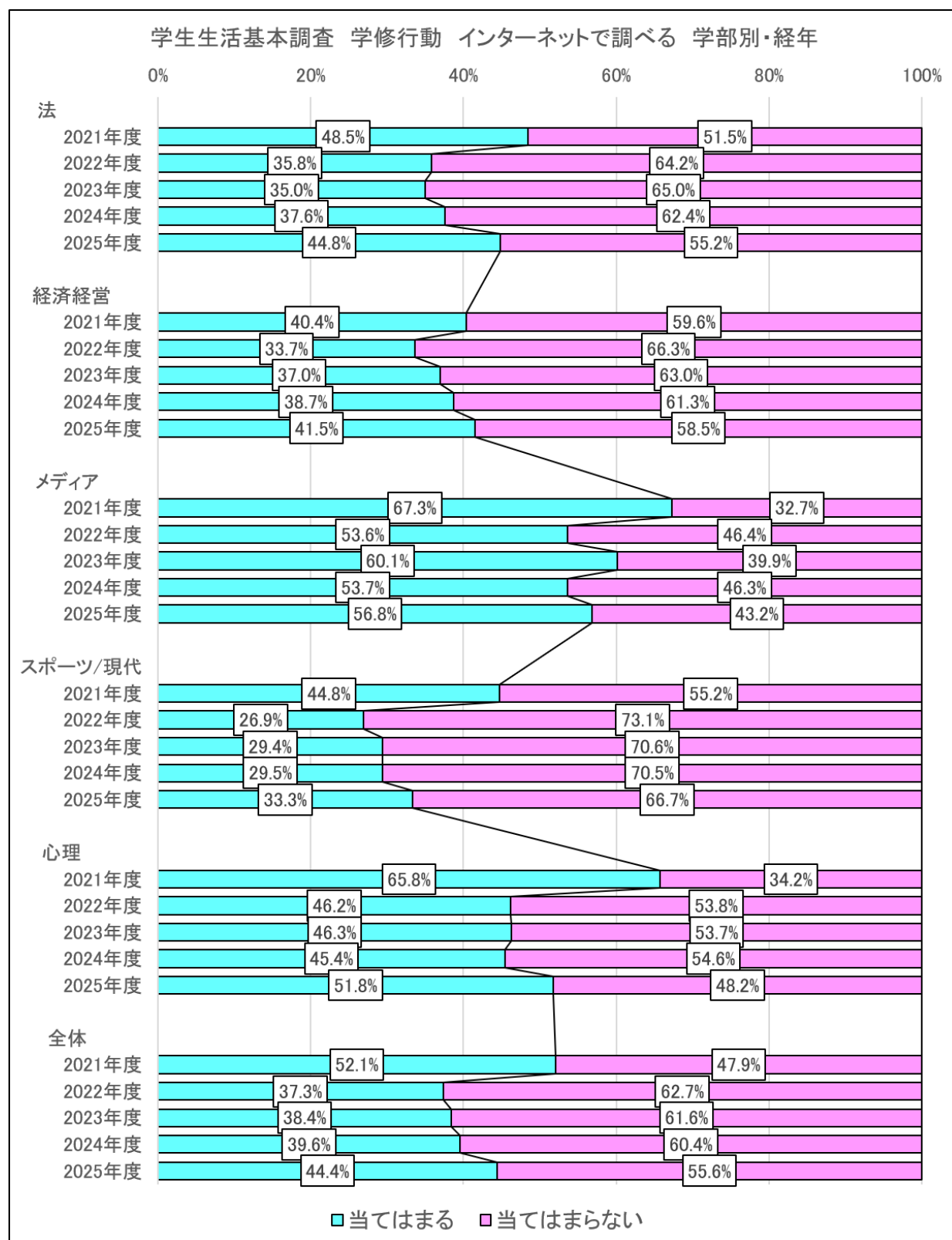


(5) インターネットで調べる

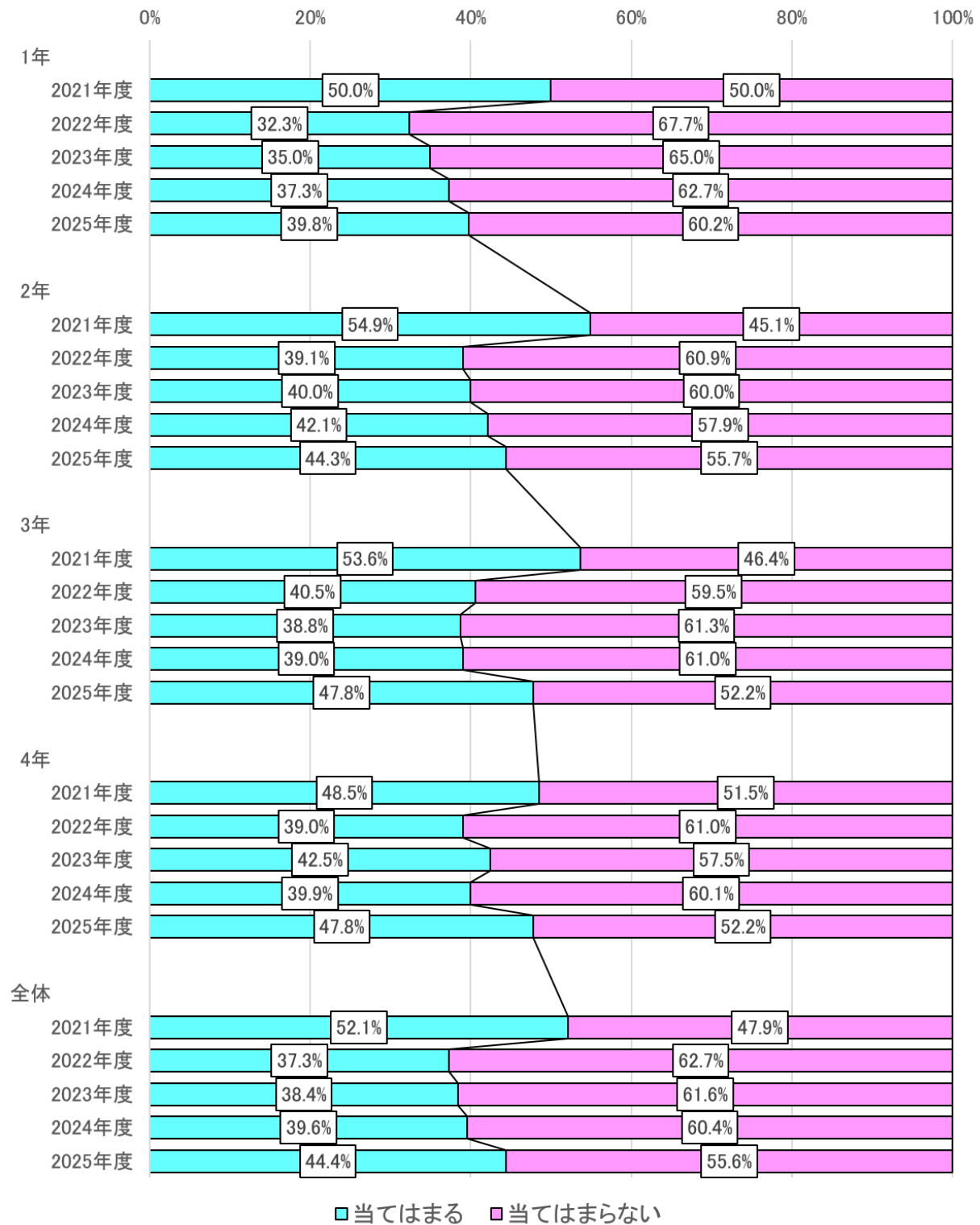
全体では44%が「当てはまる」、56%が「当てはまらない」となっています。学部別では、メディア情報学部及び心理学部で「当てはまる」の割合が高い傾向が継続しています。学年別では1年次の「当てはまる」を選択した層の割合がやや低くなりました。経年では、コロナ禍の2年間は「当てはまる」の割合が学部・学年を問わず大幅に高くなりましたが、近4年は微増傾向が継続しています。



参考) 2021 年度から 2025 年度調査経年比較

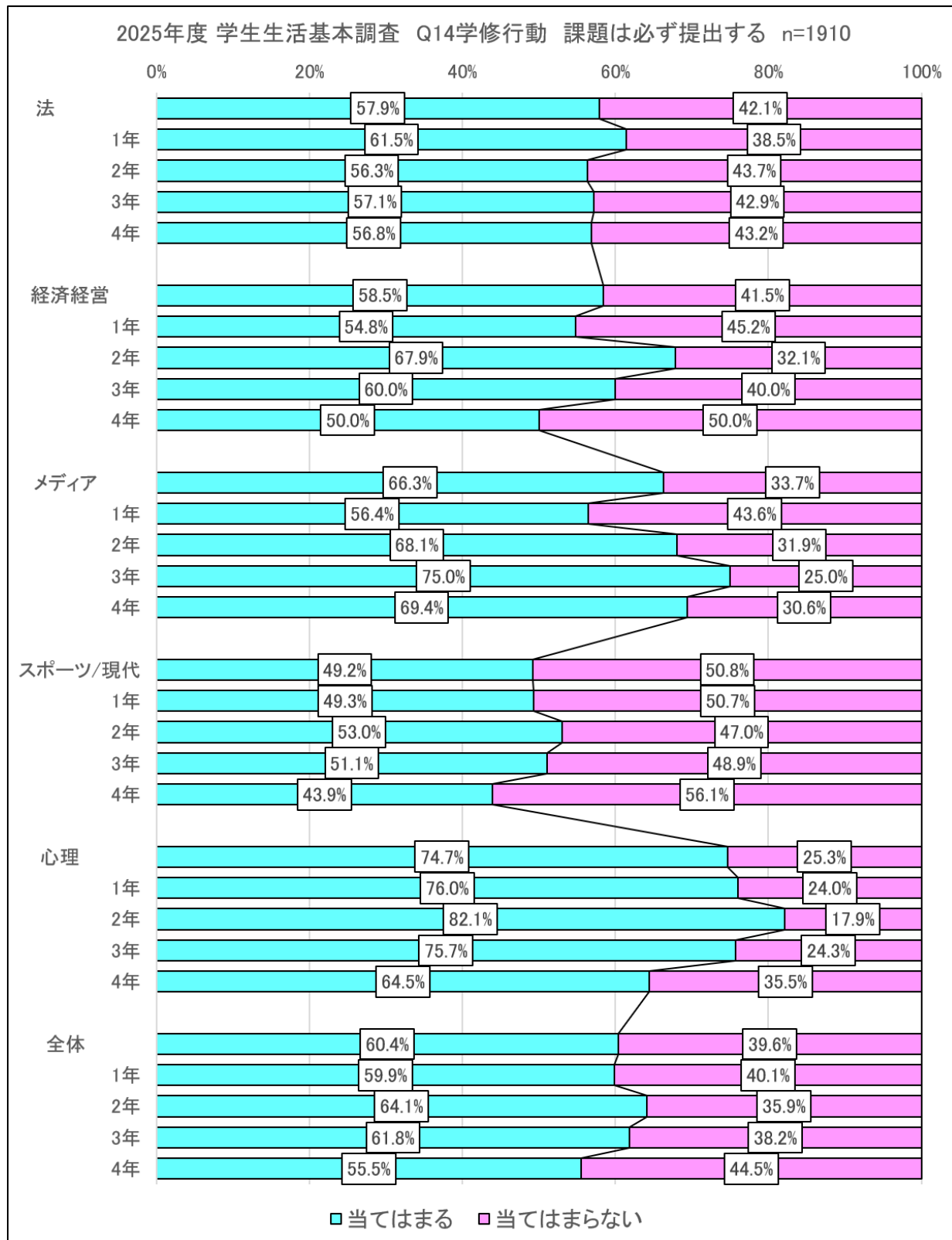


学生生活基本調査 学修行動 インターネットで調べる 学年別・経年

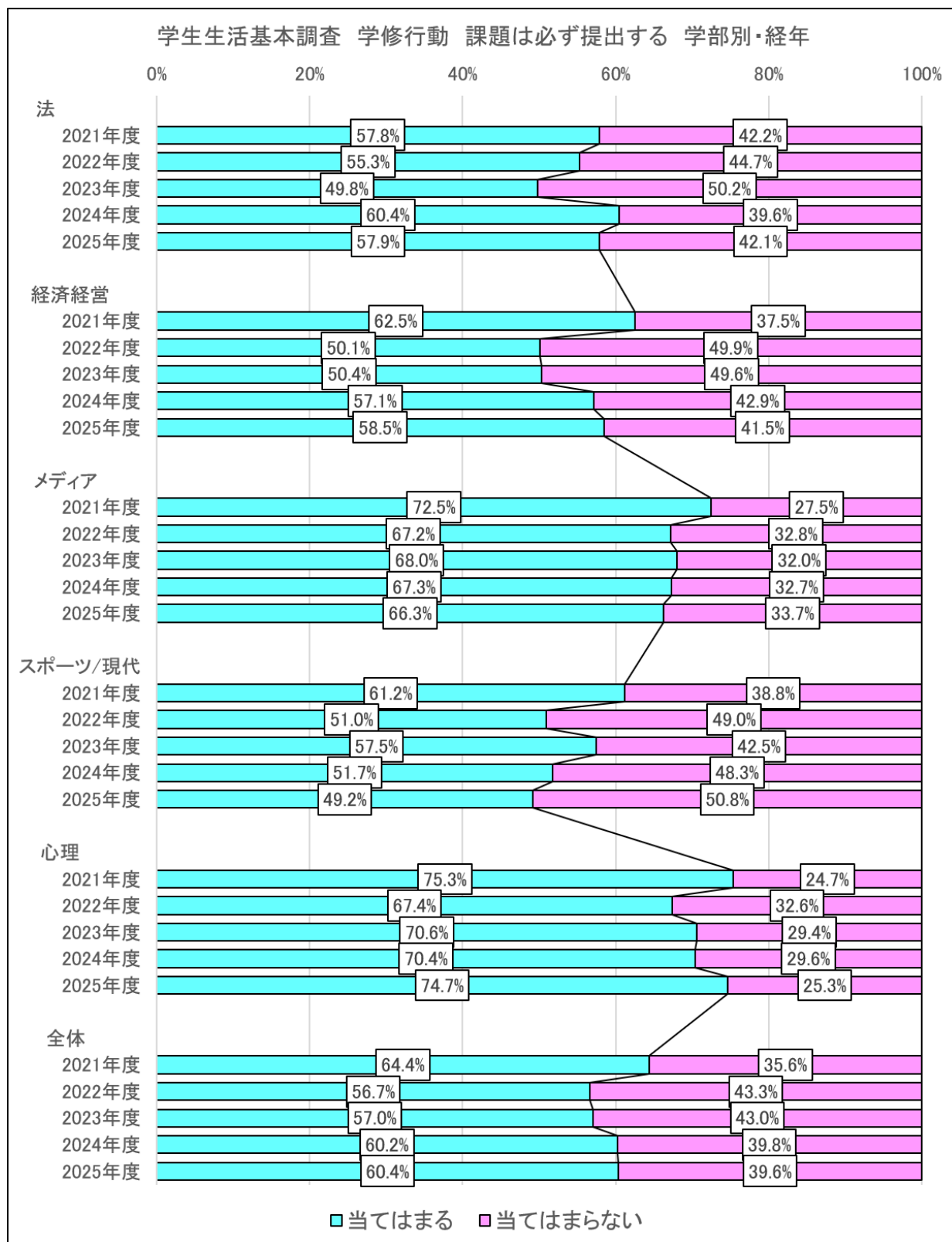


(6) 宿題・課題は必ず提出する

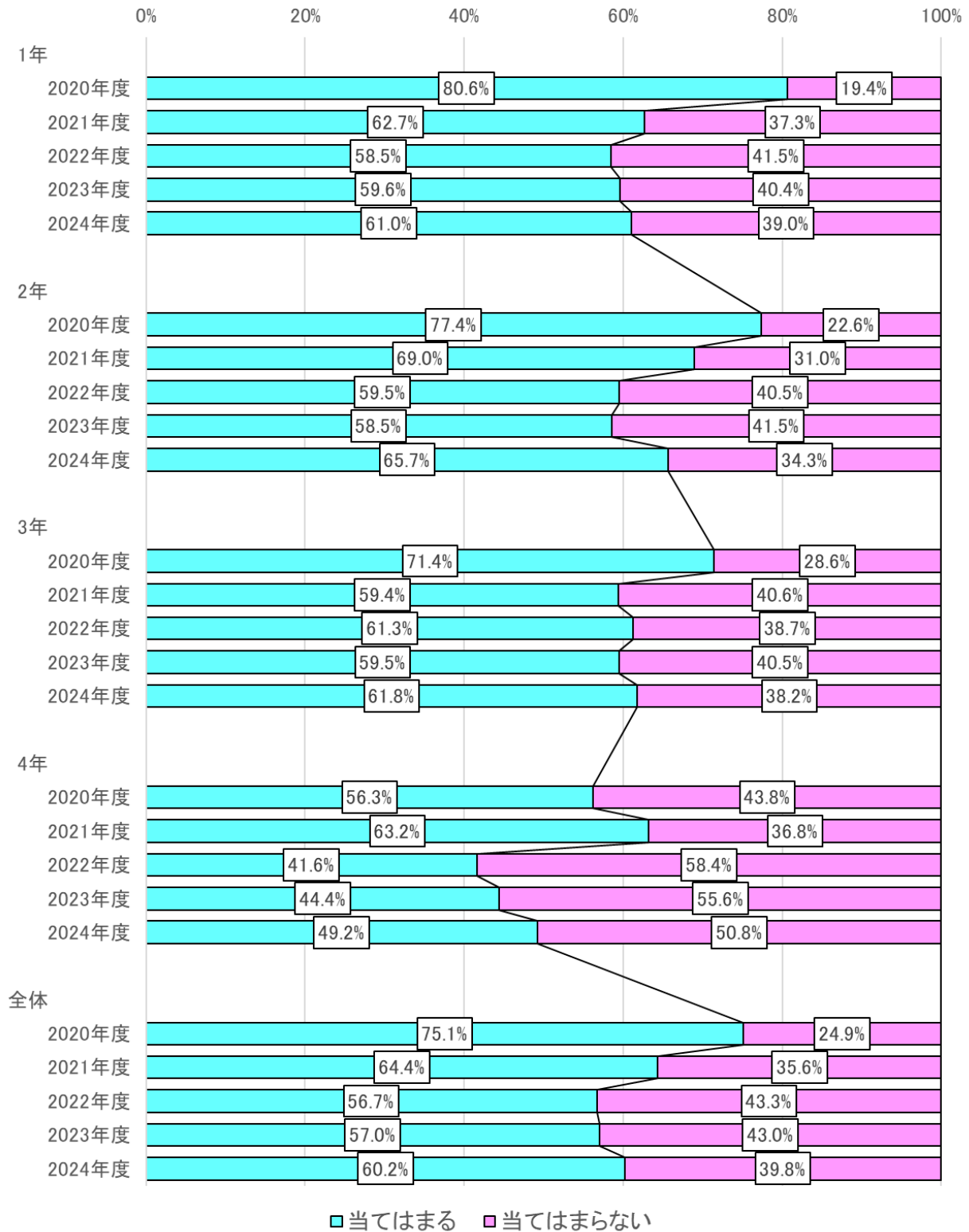
全体で60%が「当てはまる」、40%が「当てはまらない」となっています。学部別では、心理学部で「当てはまる」を選択した層の割合が高く、スポーツ科学部で低くなっています。学年別では4年次で「当てはまる」を選択した層の割合が低くなっています。経年では、コロナ禍の2年間はオンライン授業による宿題・課題の増加傾向の影響もあり「当てはまる」の割合が学部・学年を問わず大幅に高くなりましたが、前問同様に過去4年とほぼ同様の割合になっています。



参考) 2021 年度から 2025 年度調査経年比較

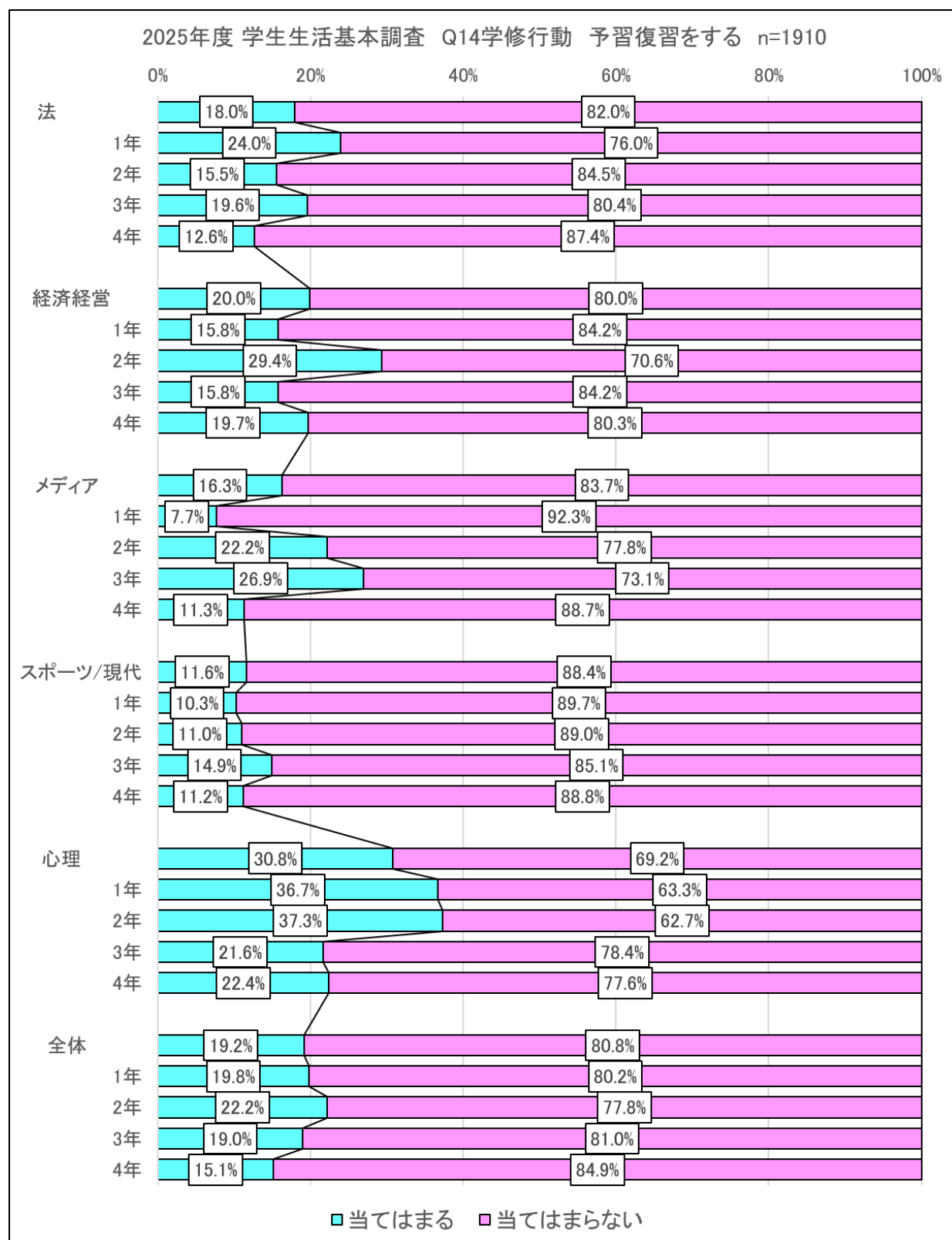


学生生活基本調査 学修行動 課題は必ず提出する 学年別・経年

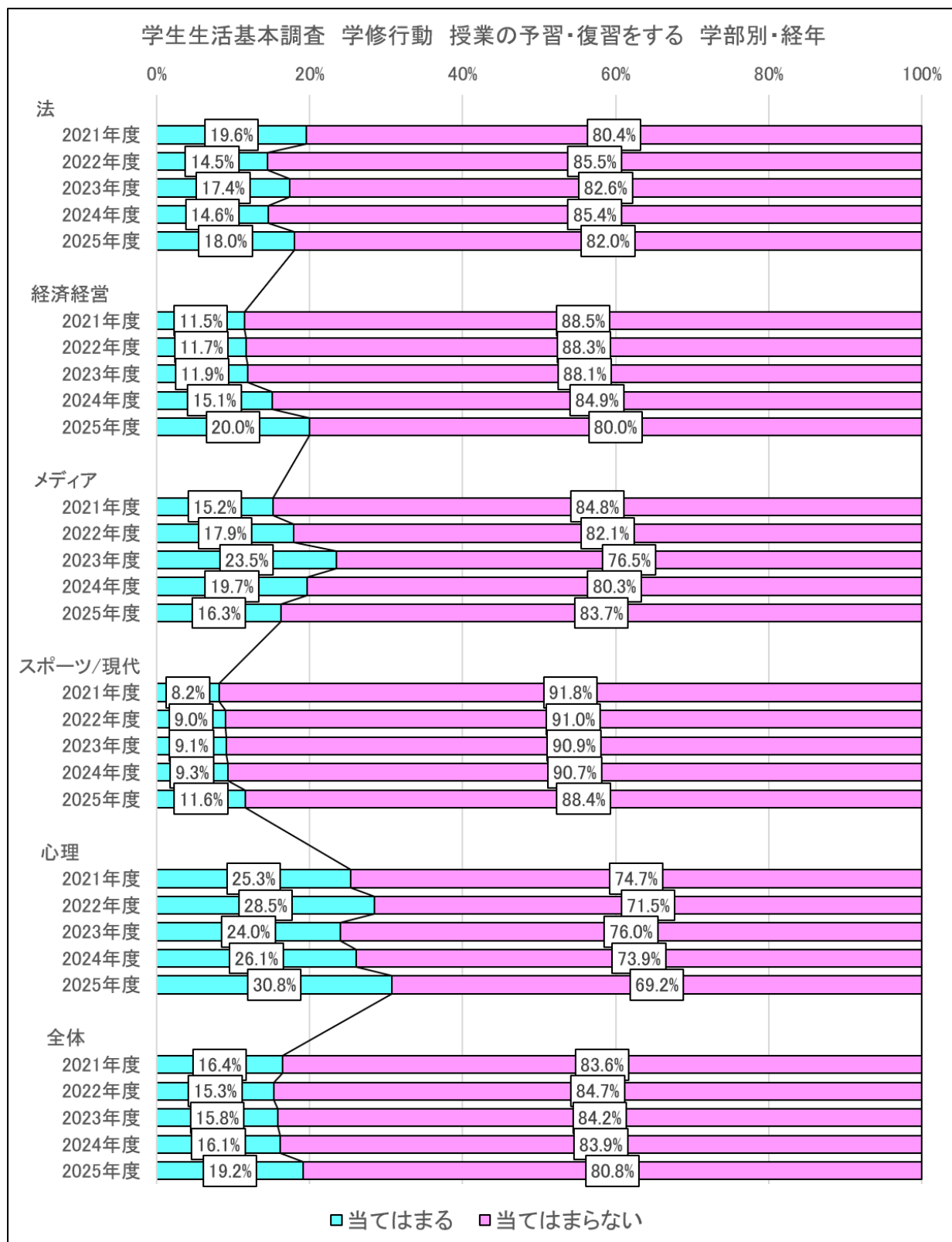


(7) 授業の予習・復習をする

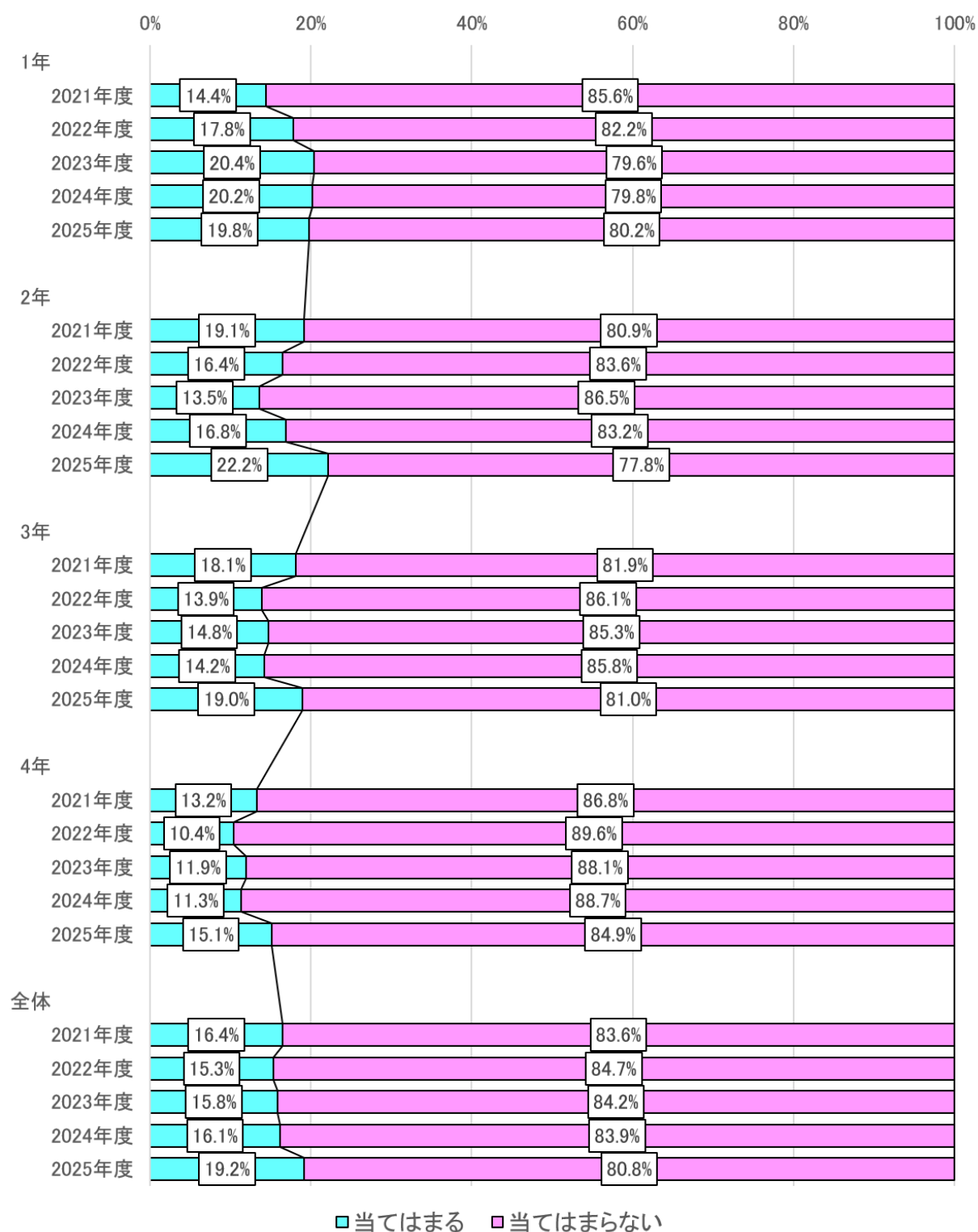
全体で19%が「当てはまる」、81%が「当てはまらない」となっています。学部別では、心理学部で「当てはまる」を選択した層の割合が31%と高く、スポーツ科学部で12%と低くなっています。学年別では4年次で「当てはまる」の割合がやや低くなっています。経年では、近4年は15-6%程度で推移したところ4%程度高くなっています。



参考) 2021 年度から 2025 年度調査経年比較

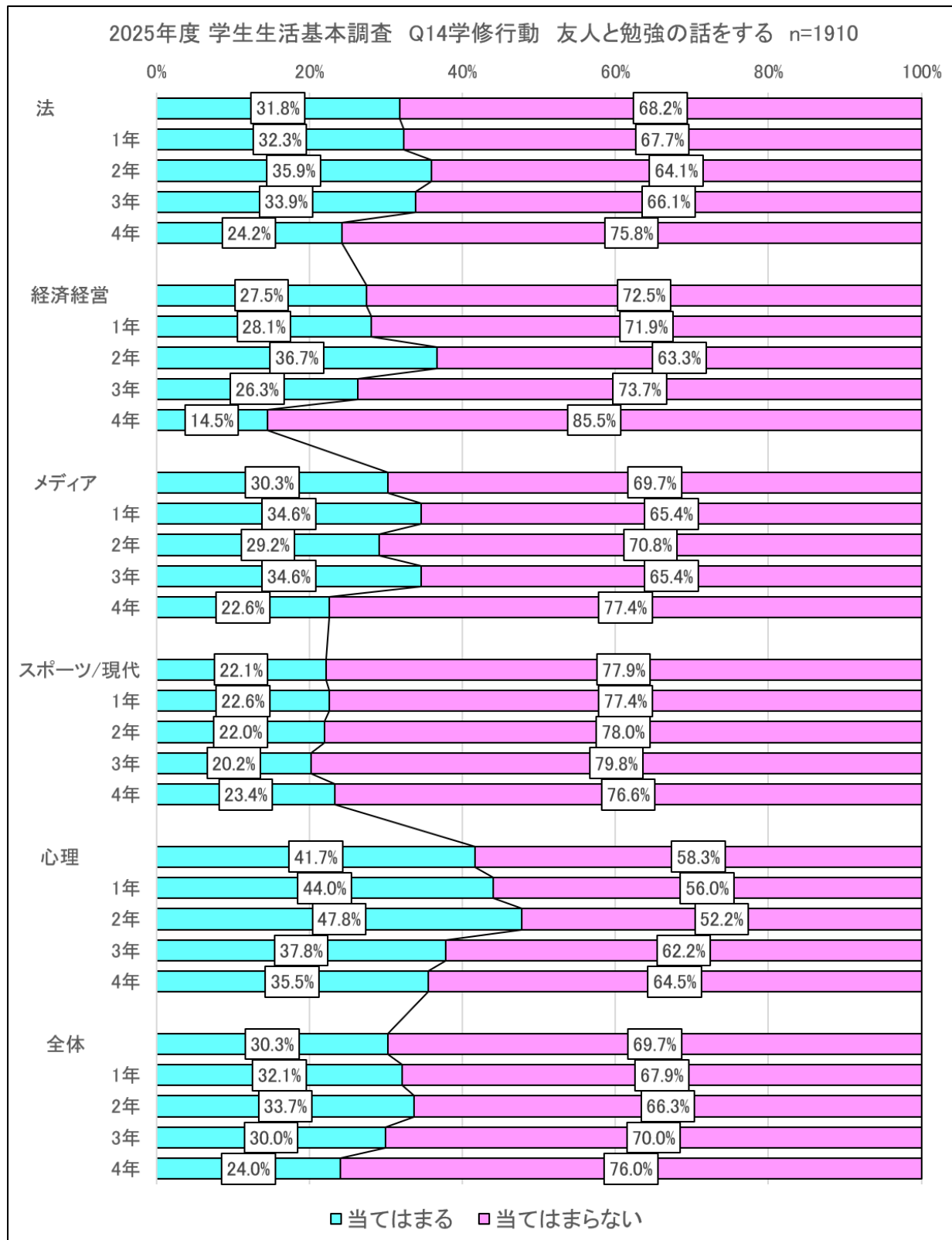


学生生活基本調査 学修行動 授業の予習・復習をする 学年別・経年

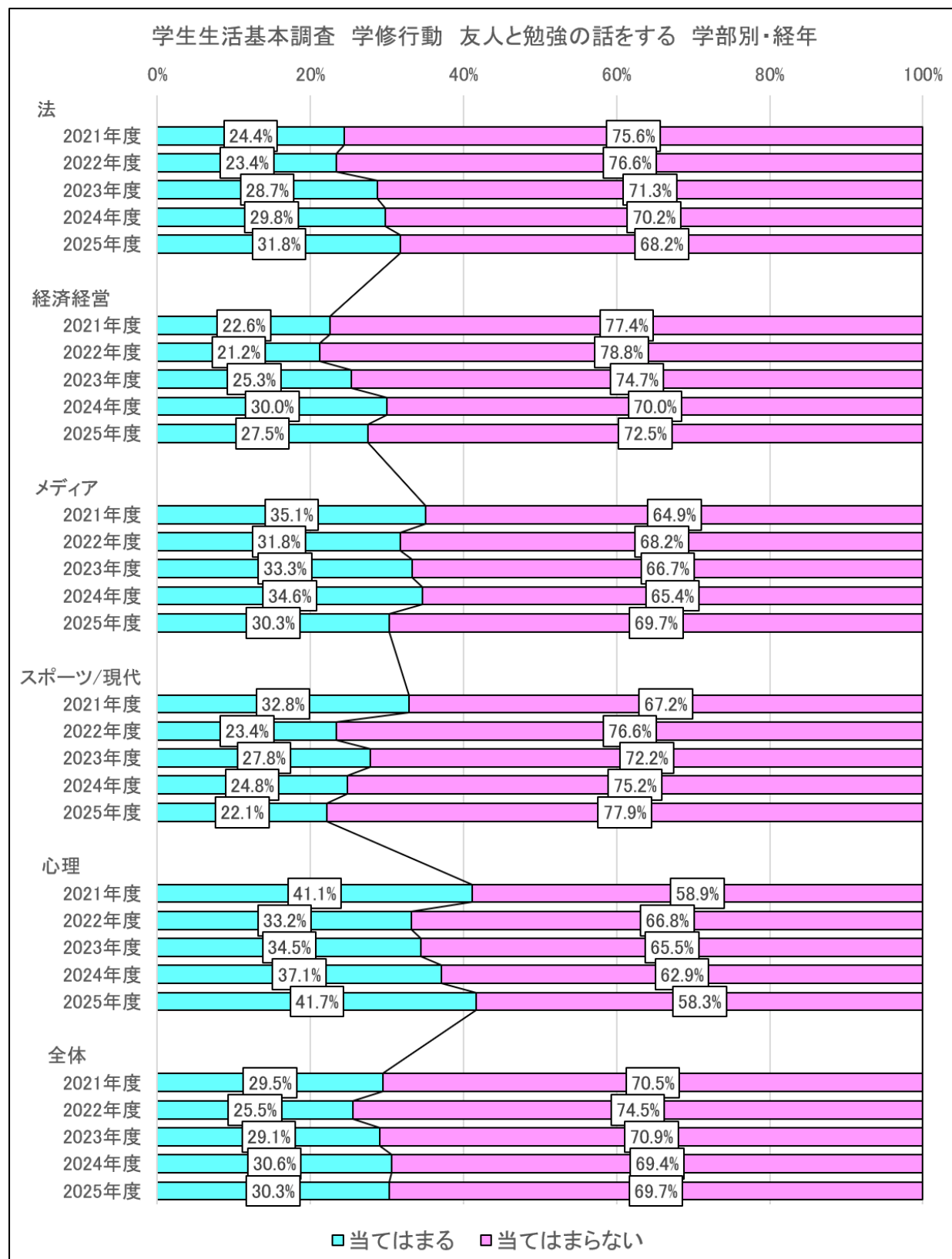


(8) 友人と勉強の話をする

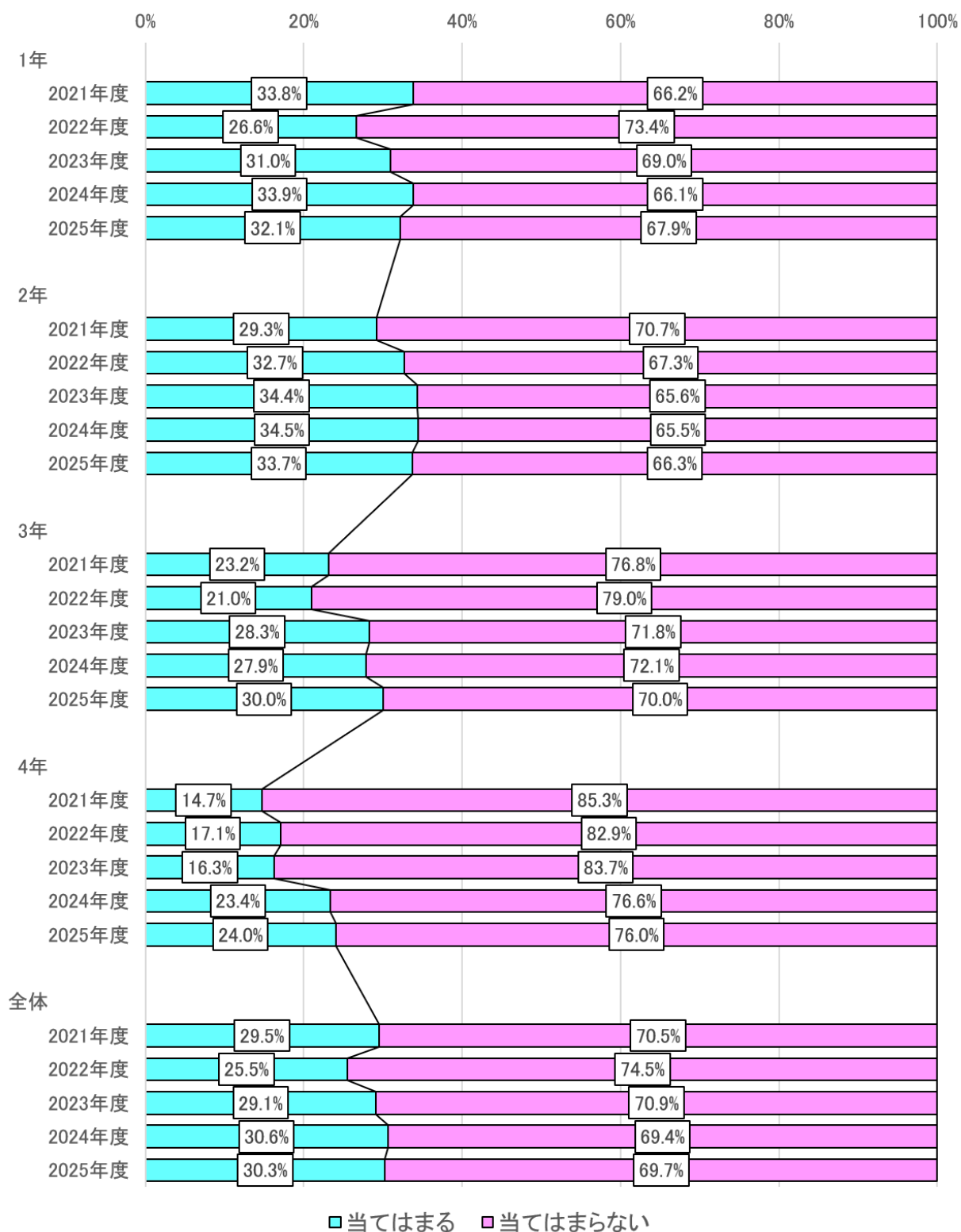
全体では30%が「当てはまる」、70%が「当てはまらない」となっています。学部別では、心理学部で「当てはまる」を選択した層の割合が42%、メ・法・経の3学部は30%前後、スポーツ科学部は22%でした。学年別では、4年次の「当てはまる」を選択した層の割合がやや低くなっています。経年では、Web調査に変更した2019年度以降、「当てはまる」を選択した層の割合が20%台後半で推移していましたが、近3年は微増傾向にあります。



参考) 2021 年度から 2025 年度調査経年比較



学生生活基本調査 学修行動 友人と勉強の話をする 学年別・経年



5. まとめと改善案

授業外の学修時間について、今回の 2025 年度調査では、週 1 時間以内を選択した層の割合は全体で 52%、同 3 時間以上を選択した層の割合は同 26%でした。全体的な傾向として、長い学修時間を選択した層の割合は、コロナ禍の 2020 年度を頂点として低下傾向にあるものの、コロナ禍以前よりはやや高いと言えます。

学部別では、1 時間未満を選択した層の割合はスポーツ科学部/現代文化学部が 70%で最も高く、心理学部が 39%と最も低い結果となりました。一方、学修時間が 3 時間以上の割合は、メディア情報・心理の 2 学部が 30%台前半で、スポーツ科学部/現代文化学部は 15%でした。

学年別では、1 時間未満を選択した層の割合は、4 年次で 51%、3 年次で 49%、2 年次で 49%、1 年次で 56%で、昨年度以前と同様に、履修科目数が最も多い 1 年次の授業外の学修時間が少ないという結果になりました。学年や授業実施形態に応じて、適切な授業外学習を促すような予習復習、課題の設定等を工夫する余地があると同時に、特に 1 年生に対してはシラバスや Moodle を通じて授業外の学修方法についてわかりやすく説明する必要があるものと思われます。

週当たりアルバイト時間との関連では、2019 年度以前は、学修時間 1 時間未満の割合は、アルバイト時間が増えるにつれて高くなる傾向が続いていましたが、今回の調査では、2024 年度調査に比べ、「していない」を選択した層の割合が 3%高くなっていますが、経年では 2023 年度以降、アルバイト時間長期化の傾向が継続しています。

学修時間 1 時間未満の割合は、2020 年度以降は「していない」を選択した層で割合が高くなる傾向が続いています。また、アルバイト時間「24 時間以上」を選択した層で、学修時間「0 分」及び「11 時間以上」を選択した層の割合が最も高くなりました。

週当たり課外活動頻度との関連では、学修時間 1 時間未満の割合は、課外活動頻度が増えるにつれ高くなりますが、学修時間 3 時間以上の割合は「ほぼ毎日」以外は大きな差はなく、過去 2 年とほぼ同様の傾向を示しています。

学修行動では、全体を通して、前年度とほぼ同様の傾向が見られました。

「できる限り授業に出席する」「メディアセンターで調べる」「インターネットで調べる」「宿題・課題は必ず提出する」「授業の予習・復習をする」「友人と勉強の話をする」の 6 設問については、「当てはまる」を回答した者の割合の微増傾向は続いており。学生の主体的学びが促進されている点において肯定的な効果が得られていることを示唆しています。

反面、「ノートを取り方を工夫する」「授業中教員の質問に答える」の 2 設問については、「当てはまる」を回答した者の割合の微減傾向が続いています。

以上